

# 聖徒の道

11  
1990



# 聖徒の道

1990年11月号



一般

2

大管長会メッセージ  
山の上にある町  
ゴードン・B・ヒンクレー

10

ベルナルド・レフランツ  
——オランダ系インドネシア人  
の開拓者  
アリス・ブルワー・セイリー

18

家族の絆を強めるための鍵  
ウィリアム・G・ダイヤー,  
フィリップ・R・クーンズ

25

教会で話をするための提案

26

最もすばらしい場所  
アン・レムリン

30

人が見ていなくても  
マリアン・E・フ林ト

32

「パンは幾つあるか」  
ジャック・M・ライアン

40

300本の羊皮紙の巻き物  
マリオナ・ウォシュバーン

42

1匹の羊をも  
シンシア・パネル

青少年

14

心の耳で聞きなさい  
アン・C・ブラッドショー

36

若人のための奉仕のアイデア60

46

人生を正しく築く  
ジョセフ・B・ワースリン

定期特別記事

1

読者からの便り

9

家庭訪問メッセージ  
予言者に従うことにより  
主を覚える

こども

2

モルモン經物語  
イノス

4

家族の記録がかり  
リサ・ダルグレン

7

分かち合いの時間  
第一のものを第一に  
ローレル・ロールディング

10

せかいのおともだち

12

小さなお友だちへ  
菊地良彦長老

14

メイ・リンへのしゅく福  
ビキー・ブルーム

## 表紙の説明——

耳がまったく聞こえなくても、デボラ・ファーガソン姉妹は福音に生きる喜びを人々に伝えようと努めています。本文「心の耳で聞きなさい」 p.14参照。

## 読者からの便り

### 光の道

私と妻が1967年にバプテスマを受けたとき、宣教師が「リアホナ」(スペイン語版)を予約してくれました。天父について知り、学び、理解を深め、天父と、私たちの長兄であり救い主であられるイエス・キリストの愛を感じるようになって、私たちの生活に次第に柔らかな光が差し込んできました。

「リアホナ」の記事は以来ずっと私たちへの大きな励ましとなっています。予言者のメッセージは正しい生活を送る「光の道」の道しるべとなりました。我が家家の3人の子供たちは福音の中で成長しました。彼らは専任宣教師として働き、今でも模範を通して福音に基づいた生活を人々に示しています。

現在、私と妻はイースター島(チリ・サンチャゴ北伝道部)で伝道しています。私たちは大管長会のメッセージに感謝しています。私たちが光の道を歩み続け、現在ラパヌイの兄弟姉妹に奉仕できるのはそのおかげなのです。救いと永遠の生命のメッセージを伝えうえでも、「リアホナ」は大きな助けとなっています。

#### イースター島ラバヌイ支部

ペドロ・サンドバル長老、エレナ・M・サンドバル姉妹

### お金の価値ある使い道

毎月掲載される教会の機関誌に対する称賛の便りを読みながら、私の心に突然次のような思いが浮かびました。

「私たちは伝える相手を間違えている。」すばらしい記事を読んだ一人一人が、友人や同じワード部に集うほかのだれかに記事のすばらしさを伝えたら、どのようなことが起きるでしょうか。証を述べるときに、教会の機関誌がどのように私たちの生活に影響を与えてくれたかという経験談を伝えたら、どうでしょうか。ワード部のすべての家族が購読の予約をしたら、どうでしょうか。私は、もっと多くの人々が福音のメッセージに感動し、生活を変え、友人たちも私たちと同じような気持ちを味わえるのではないかと思います。

予約購読数も2倍になるのではないかと思います。やってみませんか。友人に伝えてみましょう。友人にプレゼントしましょう。それは人のために投じる最も価値あるお金になるでしょう。教会の機関誌のために働くすべての皆さん。これからもこの偉大なみ業を続けて推し進めてください。皆さんはずばらしい存在です。

アメリカ・ワシントン州オーバーン  
ゲイリン・シューメーカー

### 記事を読んだその日に

教会の機関誌を楽しく読ませていただいている。最近、私はある問題を抱いていました。真に悔い改めるには、監督に話さなければならないことを承知していましたが、自分の罪を告白する勇気が持てませんでした。しばらくして私は機関誌の8月号を受け取り、私と同じ問題が『質疑応答』で論じられているのを見つけました。(『監督への告白』『聖徒の道』1990年8月号、p.28参照)記事を読み終えて、私は自分がひとりではないことを知りました。そしてその日、私は監督のもとへ行つて、話しました。むずかしいことでしたが、この記事に励されました。回答者の方と経験談を分かち合ってくれた青少年の皆さんに感謝しています。皆さんは確かに靈感を受けていらっしゃいます。

#### 匿名希望

### 編集室から

愛読者の皆様に心よりお礼申しあげます。皆様からの手紙、記事、証などを募集しています。(投稿の際は、住所、氏名、所属ステーキ部/地方部、ワード部/支部名を記入してください)これまでいただいたお便りに感謝するとともに、今後もさらに多くのお便りをお待ちしています。□

## 聖徒の道

1990年11月号

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

大管長会: エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクリー、トマス・S・モンソン  
十二使徒員会: ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バッカー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ジエームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダニン・H・オーカス、M・ラッセル・バラード、

ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット

顧問: レックス・D・ピネガー、ジーン・R・クラック、ウイリアム・R・フラッドフォード、フランシス・M・ギボンズ、ジェフリー・R・ホーランド

編集長: レックス・D・ピネガー

教科課程管理部実務部長: ロナルド・L・ナイトン

教会機関誌ディレクター: トマス・L・ビーターソン

編集主幹: ブライアン・K・ケリー

編集副主幹: デビット・ミッセル

編集主幹補佐: アン・レムリン

編集主幹補佐/ごどものページ: ディーン・ウオーカー

チーフアートディレクター: M・マサト・カワサキ

アートディレクター: スコット・D・バン・カンベン

デザイナー: シェリー・クリック

制作: シドニー・N・マクドナルド、レジナルド・J・クリスティセン、ジーン・アン・ケ

ンブ、ティモシー・シェバード

配送部長: ジョイス・ハンセン

聖徒の道 1990年 11月号第34巻第11号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社/クロスロード

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約 1,100円(送料共)

普通郵便 150円、会員号 350円

International Magazine

ITEM 90991 300

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright © 1990 by the Corporation of the President of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期講説は、「聖徒の道約申込み用紙」でお申込みになるか、または現金書留か郵便振替

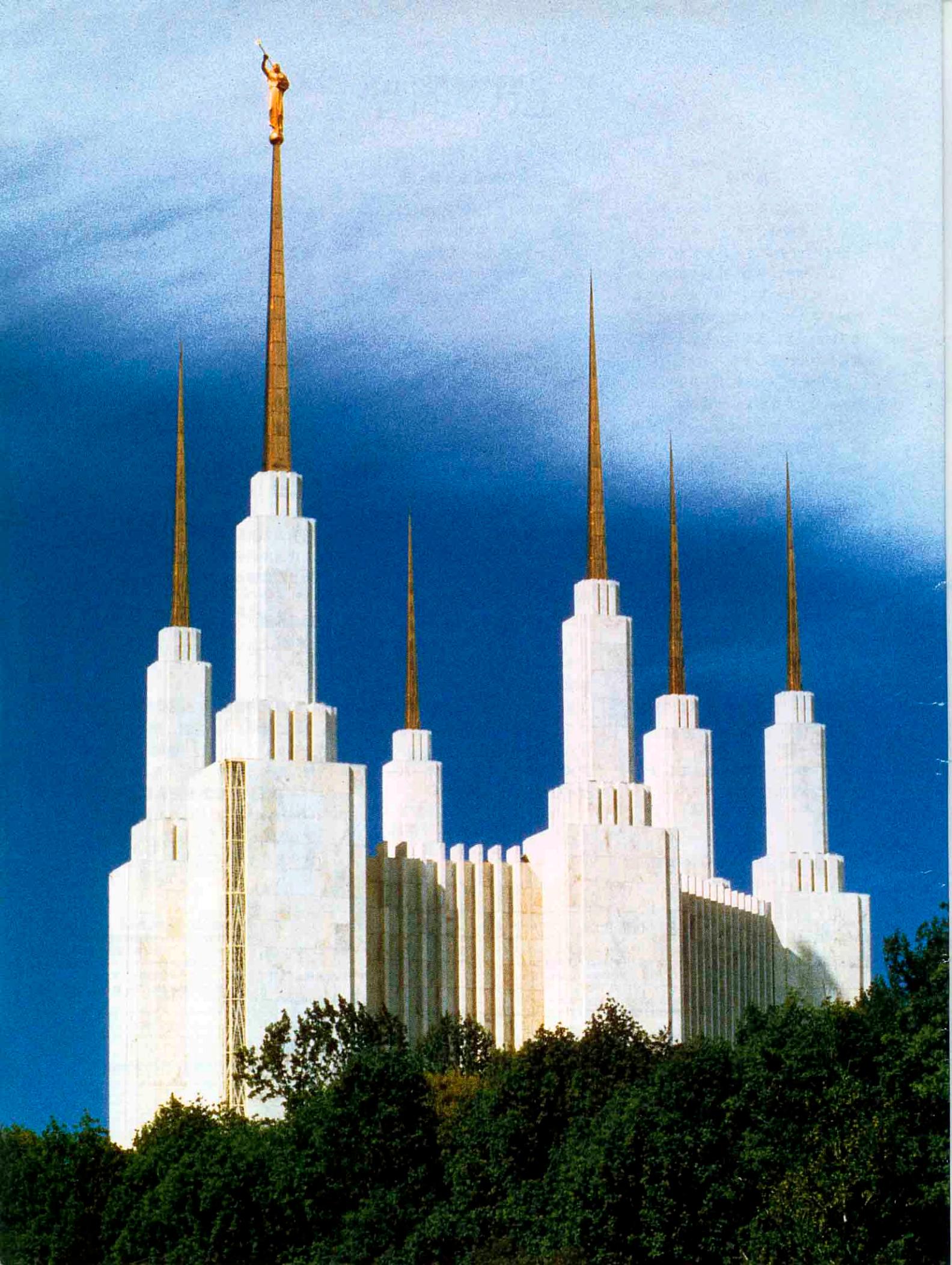
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替

口座番号/東京〇-41512)にて管理本部經理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106 東京都港区南麻布5-10-30 管理本部 経理課 ☎ 03-440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配達についてのお問い合わせ…〒213 川崎市高津区満の口 131 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部 配送センター ☎ 044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150. U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.



# 山の上にある町

大管長会第一副管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

**私**はワシントン神殿の献堂式のときに経験した数々のすばらしい出来事を、いつまでも忘れることができません。私はその週のほとんどを何人かの人と共にワシントン神殿の入り口に立ち、特別な来賓の接待に過ごしました。その中には合衆国大統領夫人や最高裁判事、上院議員、下院議員、各大使、牧師、教育者、実業界指導者などがありました。その特別の招待の週を皮切りに、30万人を超える訪問者がうやうやしい態度でこの聖なる建物を見学したのでした。

新聞や雑誌はワシントン神殿についてかなりの紙面を割き、ラジオ、テレビも大々的に報道しました。当時東部でこのように衆目を集めた建物がはたしてほかにあったでしょうか。

見学者はほとんど例外なく、この建物を高く評価し、敬虔な気持ちを覚えました。心に深い感動を覚える人も数多くいました。大統領夫人は神殿を去るときに、「本当にすばらしい経験でした。きっと皆さんがすばらしい靈感を受けられると思います」と語っていました。

連日ほかの人と一緒に、神聖な建物に立って合衆国内外のそうそうたる人々と握手を交わしていると、ふたつの思いが幾度となく心をよぎりました。それは過去の歴史と、そして現在と将来に対する思いでした。

私の心は135年前の昔に飛んでいました。当時教会員はイリノイ州コマースで家もなく日々の糧にも事欠き、間もなくやって来る厳しい冬を迎えるとしていました。彼らはミズーリ州を追われ、安住の地をイリノイ州に求めてミシシッピ川を渡って來たのでした。彼らは川が大きく湾曲する美しい場所に土地を購入しましたが、そこはひどい湿地で、馬も牛も泥まみれになるほどでした。しかし聖徒たちの大変な努力と犠牲によって、やがてこの地は美しい町ノーザーとなつたのでした。1839年、家を追われて寄る辺のない何千人という人々がその集合地コ

「多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう』と。」(イザヤ2：3)

マースに集結しました。彼らは長年の労働によって建てた家や納屋、教会や公共の建物、数多くの豊かな農園を後にしてきました。その中には暴徒に殺された愛する人々をミズーリの地に葬ってきた人もいました。土地を追われ、無一物になったにもかかわらず、ミズーリ州から何らの賠償も受けられなかった彼らは、ついに合衆国大統領と議会への請願を決意しました。そしてジョセフ・スミスとエライヤス・ヒグビーが、ワシントンへ赴いたのです。

ふたりは1839年10月20日に馬車でコマースを出発しました。5週間後にワシントンに到着し、第1日の大半は安宿探しに費やしました。ハイラム・スミスあての手紙に「この町で一番安い宿を見つけた」(「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」4:40)と記されています。

彼らは当時の大統領マーチン・ヴァン・ビューレンを訪れ、実状を訴えました。しかし大統領の返事は「お説はごもっともですが、私としては何もして差し上げられません。……あなた方に肩入れをすると、ミズーリ州の票を失うでしょうから」(「教会歴史」4:80)というものでした。

ふたりは次に議会に訴えました。数週間がたち、何ら満足できる返事も得られないままジョセフは馬でコマースに帰りました。ヒグビー判事は後に残って請願しましたが、結局、議会は何ら手を打たないと知らされただけでした。

1839年、ジョセフ・スミスがワシントンで拒否されながら、教会と神殿が称賛を受けている1974年までの間を振り返ると、教会が政府職員から敬意と信頼を勝ち得るに至るまで、なんと長い道のりを要したことかと思いました。これがワシントン神殿で過ごした数日間、私の胸中を去來した思いでした。

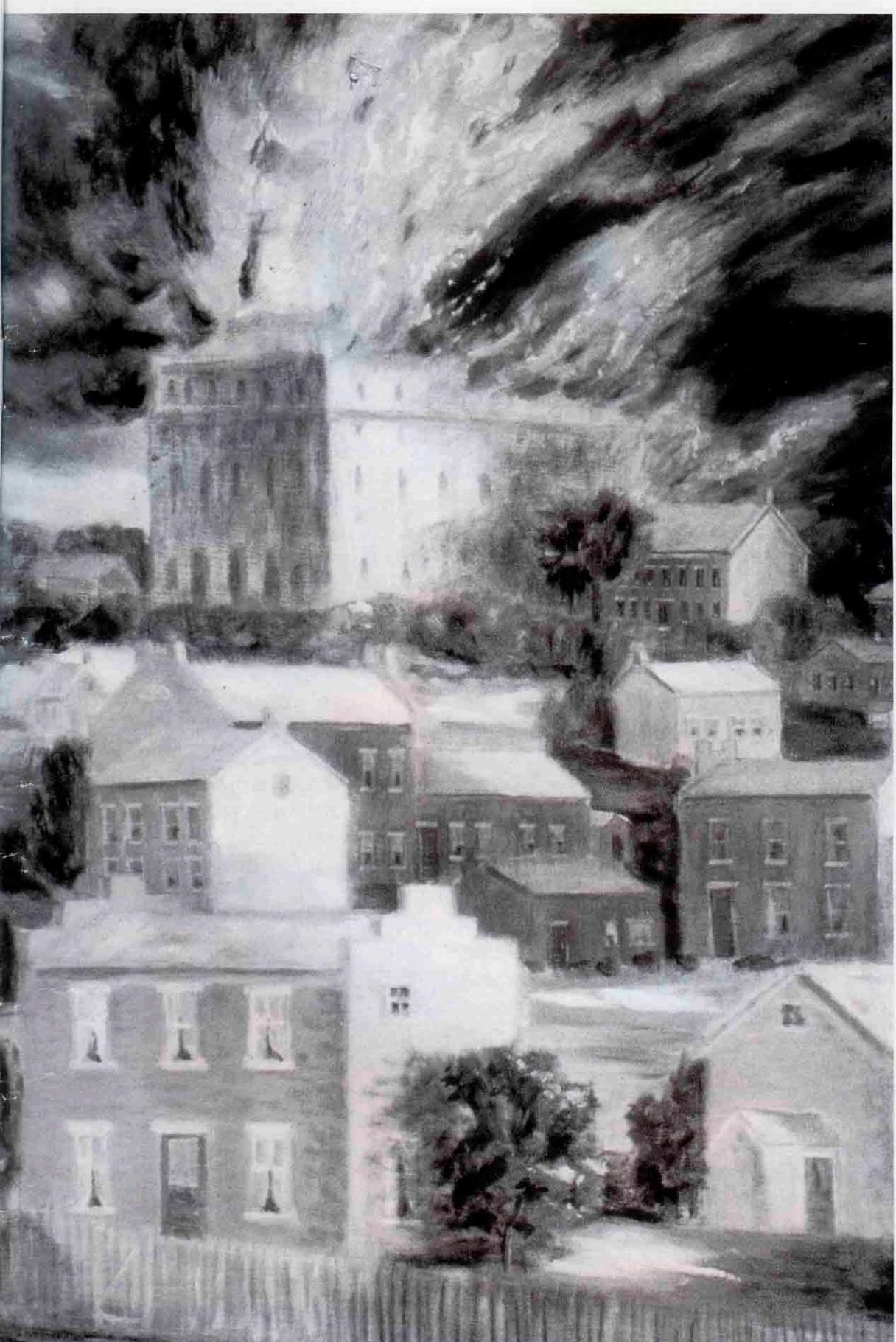
そしてこの間には、さらにいろいろな出来事がありました。1844年6月27日のジョセフとハイラムの死とノー

バーの崩壊。川を渡ってアイオワ準州へ向かう荷馬車の長い隊列。1846年春の雪と泥にまみれた悲惨な野営地。ミズーリ州ウインタークォーターズ。さらにペストや熱病による多くの犠牲者。請願には耳を貸さなかった政府からの召集礼状。また、エルクホーン川、プラット川、スウィートウォーター川、サウスパスを越え、ソルトレーク盆地に至る過酷な行進。東部や英國から長い道のりを旅してきた人々。手車を引きながら、ワイオミングの冬に倒れた人々。ユタの山あいの地で繰り返された雑草との戦い。乾き切った土地に水を引くための何キロにも及ぶ灌漑水路。偏見から生じた攻撃と非難の叫び。この同じワシントンで制定され、連邦政府の保安官が守る法の下での市民権の剝奪。これら一つ一つの出来事が積み重なって長い歴史を作っていました。

この厳しかった時代が、今や過去のものとなったことを神に感謝し、また試練の炎の中にあっても、なお信仰を保ってきた人々にも感謝を捧げたいと思います。私たちが今受けているもののために彼らが払った代償の、なんと大きかったことでしょうか。兄弟姉妹、私たちはそのことを忘れてはなりません。そのほかみずから正しい生活によって、人々からの教会への称賛の念を築き上げてきた方々にも感謝しています。そして末日聖徒イエス・キリスト教会に対する理解が増し、評価と認識が広く豊かになったこの良き時代を感謝したいと思います。

初めは好奇心でワシントン神殿を訪れた人が、帰るときには目に涙をたたえていることもしばしばでした。こうした大勢の人々と握手を交わしながら、私はそのようなことを考えていました。

しかし、これらは概して過去のことです。現在と将来のことについても幾つかの思いがあります。私は高速道路を車で走っていたあるとき、そこを通る人ならだれでもそうなのですが、樹木の茂る丘から天に向かってそびえ立つ主の宮居の輝く尖塔を、驚異のまなざしで見上げま



ノーヴー神殿とカートランド神殿の崩壊、初期の聖徒が受けた拒絶や迫害は、教会が今、世の人々から受けてい る理解や称賛と比較す ると、大きく明暗を分 けています。

した。そのとき、心にひとつの聖句が浮かんできました。それは、主が山の上に立って民に教えられたみ言葉です。

「山の上にある町は隠れることができない。また、あかりをつけて、それを秆の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照させるのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5：14—16)

今やワシントン神殿ばかりでなく、全会員が、隠れることのできない山の上の町のような存在になっています。

私たちは名前だけの教会員が犯罪にかかり、モルモンだとことさらに報道されるのに憤慨するがあります。ほかの教会の信者なら何も言われることがないのです。

しかしそれは、ある意味で私たち教会員に対する賛辞とは言えないでしょうか。世間は私たちにより良いものを期待しており、たまたまだれかがつまづくと、それがすぐニュースに載ります。実に、私たちは隠れることのできない山の上の町です。私たちが主の望んでおられるようになるには、実際に「王国の神権者、聖なる国民、特異な民」とならなければなりません。「それによって、暗やみから驚くべき光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」(欽定訳Iペテロ2：9)

世の潮流がこのままの状態で進み(事実変わる気配は一向にありませんが)，反面私たちが予言者の教えに従い続けたならば、私たちはますます世から注目される特異な民となっていくでしょう。たとえば、家庭の尊厳が世の圧力に屈して崩壊する一方で、もし私たちが信仰を守り続け家庭を神聖なものとするならば、その立場はさらに際立って特異なものとなっていくことでしょう。

また、性の放縱の風潮が広まり続ける中で、1世紀半以

上にわたり一貫して教えられた教会の教えは、ますます特異に、また奇異にさえ感じられるに違いありません。

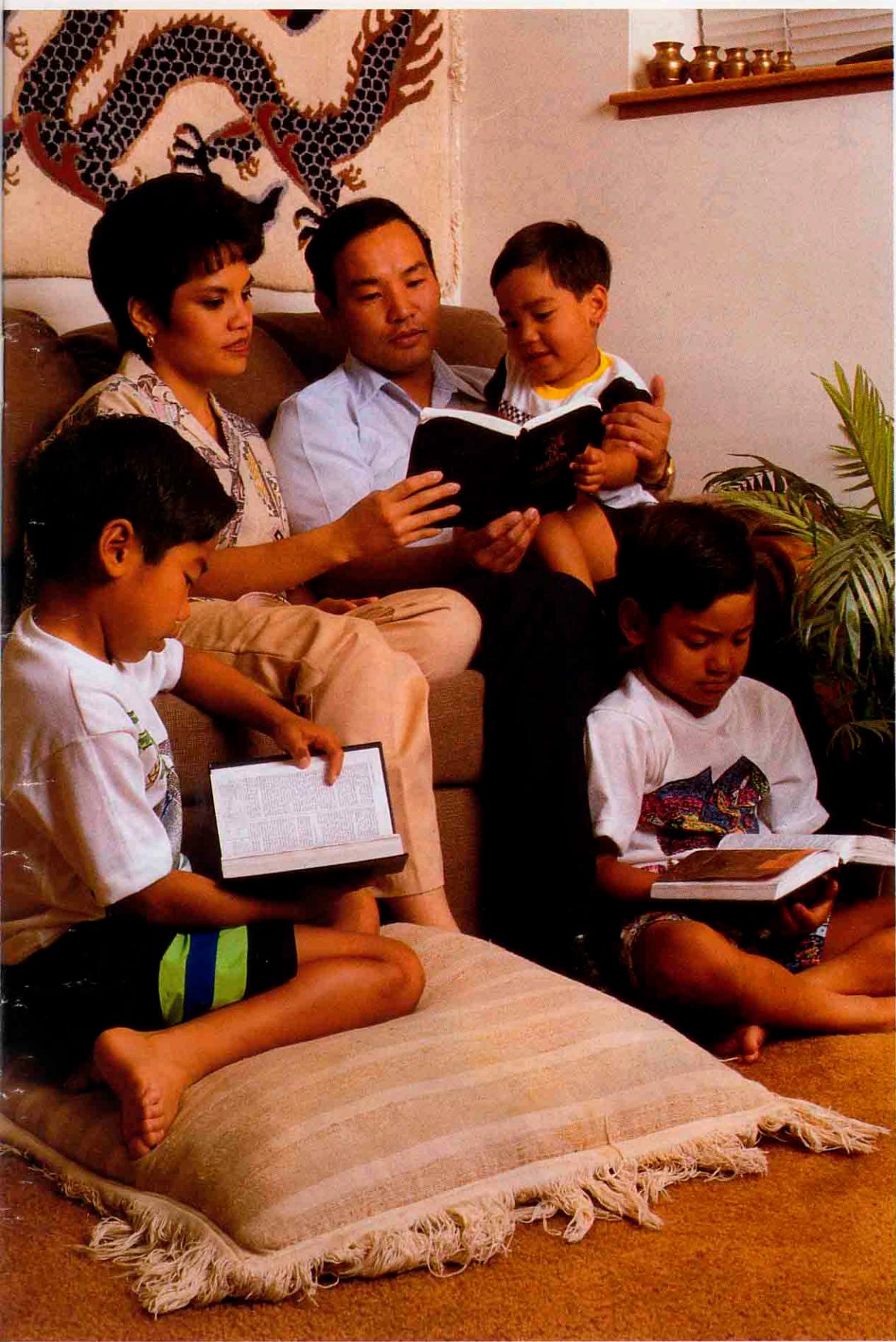
年々アルコール消費量が増えて、薬物乱用の問題が深刻化している世の中にあって、1世紀半以上の昔に主が定められた私たちの立場は、世の人々にとってさらに風変わりなものとなっていくことでしょう。

政府が国民の要求を一手に引き受けているとする動きが強い中にあって、教会の福祉活動の自立性とその背後にいる教義は、ますます重要性を増し加えていくことでしょう。

安息日が買い物と娯楽の日へと急速に姿を変えつつある中で、シナイ山上で主の指をもって書かれ、近代の啓示でも強調されたあの律法の教えに従う人々は、ますます特異な人々になるに違いありません。

世にありながら世のものとならないことは、必ずしも容易なことではありません。私たちは、まったく自分たちだけでは生きられはしませんし、それを望んでもいません。私たちはほかの人々と交わらなければなりません。そうしてこそ、親切もでき、人にも好かれます。独善的な気持ちや態度をぬぐい去ることができます。しかしそれでも私たちはみずから標準を守ることができます。私たちは往々にして世に染まりがちです。現に多くの者がそれに屈しています。

1856年、末日聖徒がおもにこのソルトレーク盆地で外部との交流もなく暮らしていたころ、ある人々は自分たちが世の道に染まることはないと考えていました。しかしそのような考えに対して、ヒーバー・C・キンボール副管長はこう答えています。「兄弟たち、私はあなた方に言いたい。今は平和なこの盆地にも間もなくいろいろな人が交じり合って住み、神の民の敵の顔と聖徒の顔の区別がむずかしいほどになる時が来るであろう。多くの者がふるいにかけられる時に注意しなさい。やがて大変革の時が来て、多くの人が倒れる時が来る。試し、試み、



家庭の尊厳が世の圧力に屈して崩壊する一方で、もし私たちが信仰を守り続け家庭を神聖なものとするならば、その立場はさらに際立って特異なものとなっていくことでしょう。

試練がやって来る。はたしてそれに耐えられるのはだれだろうか。」(オルソン・F・ホイットニー「ヒーバー・C・キンポールの生涯」p.446)

私はこの試練がどのような性質のものか、はっきりとは知りません。ただ、その試練の時は今であり、世の道に従うのではなく、いかに福音に従うか、その力を問われていると考えています。

私は決して社会からの逃避を勧めているではありません。むしろ私たちは実業、科学、政治、医学、教育そのほか価値ある建設的な仕事において、自分たちの地歩を固める責任とチャレンジが与えられているのです。私たちはすべての人々に祝福を及ぼすために、世の仕事においても、技術や知性の面でひいでた者となるべく、みずからを訓練する義務があります。私たちはほかの人々と共に働くなければなりません。しかしそのために、自分の標準を放棄する必要はないのです。

私たちは、指導者の勧告に従うならば、家庭を本来るべき姿に保つことができます。私たちがそうするなら、周囲の人々は敬意をもってそれを見、その方法を知りたいと思うようになるでしょう。

私たちは国家の根幹を揺るがすボルノグラフィーやわいせつを売り物にする風潮に対抗していくことができます。アルコール飲料を避け、その使用を規制する法律を定めるように立ち上がることもできます。そして、共鳴する人々を見いだし、手を携えて共に闘うこともできるのです。

私たちは困っている人々を政府の手に任せのではなく、自分自身の手でもっと良い助けを与え、それによって援助を受ける側の人々の自立心と自尊心とを守ることができます。

私たちは安息日の買い物をやめることもできます。ほかに6日もあるというのに、わざわざ日曜日に家具を買ったり、服を買ったりする必要はありません。少し気を

つけて計画すれば、日曜日に食料品を買わないようにすることなど容易にできることなのです。

私たちが教会で教えられているこれらをはじめとする様々な標準を守るならば、世の多くの人々は私たちに敬意を払い、自分たちもそれが正しいと認識している原則に従おうとする力を見いだすことができるのです。

イザヤの言葉にこうあります。「多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう』と。」(イザヤ2:3)

私たちは妥協する必要はありません。妥協してはならないのです。主がこの神権時代にともされた明かりは、全世界を照らす明かりとなります。また私たちの良い業を見る人々は天にいます御父をあがめ、私たちが示す模範に倣うようになるのです。

まずあなたや私が、そしてすべての人々が、家庭や職場、娯楽の場にあっても人が仰ぎ見、教えを受ける山の上の町のような人物となり、地の民が力を得る国民の旗じるしとななければなりません。□

#### ホームティーチャーへの提案

1. ヒンクレー副管長は、世の潮流がこのままの状態で進むなら、「私たちはますます世から注目される特異な民となっていく」と述べている。
2. 世にありながら世のものとならないようにするのは、決してやさしいことではない。「それでも私たちはみずから標準を守ることができる。」
3. ヒンクレー副管長は私たちに課せられている試練について述べている。その試練はどのようなものであると書かれているだろうか。
4. 人々の前に光を輝かすために、どのようなことができるだろうか。

# 予言者に従うことにより 主を覚える

「わが声にて言わるるも、僕らの声にて言わるるもみな一つなり。」（教義と聖約1：38）

**あ**なたは次のように自問してみたことがありますか。「自分だったらレーマン人サムエルの悔い改めという訴えにどうこたえていただろうか。」「差し迫る滅亡を予言したエレミヤの警告にはどうだろうか。」「年若いジョセフ・スミスの証はどうだろうか。」

自分ならこれら昔の予言者の言葉を信じ、聞き従う側についたんだろうと考えたくなるのが人の常です。しかし、現代の私たちにも同じ選択の機会が与えられています。古代の予言者を通して語られたエホバは、今も生ける予言者を通して、私たちにメッセージを送り続けておられるのです。私たちは大管長に対する支持の拳手のときに、大管長への信頼の気持ちを表わします。私たちは予言者を通して、現代の数々の問題に対する神の導きを受けるのです。

## 私たちは真剣に聞いているでしょうか

私たちは恵まれて、教会の機関誌やそのほかの方法を通して定期的に予言者の言葉を受けられています。しかし私たちには、印刷物という形で伝えられる予言者のメッセージを読み、深く考えるというこのすばらしい機会をどれほど生かしているでしょうか。祈り、聖典の勉強、正直などの原則は「十

分に知っている」という態度で、予言者の勧告を軽んじているようなことはないでしょうか。

聖典には、予言者に従うという点について、過去の時代の実例として数々の有意義な教訓が載っています。ノアの家族は周りの人がだれも信じなかつたにもかかわらず、自分たちの父親の警告を受け入れました。靈感によるリーハイの求めに対するニーファイとレーマンの反応はまったく正反対のものでした。どちらの場合も、予言者の言葉に従おうとしなかった人は重大な結果を自分の身に招くことになりました。

アビゲイル・モーリス姉妹は婚約していた相手からその約束を解消され、何を信じてよいかわからなくなっていました。しかし彼女は「モルモン經を真剣に学びなさい」というエズラ・タフト・ベンソン大管長の勧告に従うことによって、心に慰めを得ることができました。モルモン經を読んでいくうちに、神の道にとどまる力を得、神の力をさらに豊かに与えられるというベンソン大管長の約束が真実であることを知ったのです。

「定期的な聖典の学習を通して、ほかにもたくさんの祝福をいただきました。福音だけでなく、自分自身を信じる気持ちも強まってきました。神は愛に満ちた天の御父であり、……私たち人間の幸福のために、そのご計画の中にあって私たちが果たすべき大切な務めを与えてくださっているのです。」（「エンサイン」1989年3月号、p.37）

「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」（アモス3：7）

主はこの約束を必ず守られます。神を心から愛している人は、神が召された予言者を愛し、その言葉に聞き従うことでしょう。□

## 訪問教師への提案

1. 現代の予言者を通して啓示された主のみ言葉に親しむにはどうしたらよいか話し合う。「聖徒の道」の大会特集号のメッセージを伝えるとよい。
2. 現在の予言者が末日に生きる私たちのために主から召された指導者であることを証する。



# ベルナルト・レフランツ —オランダ系イン



# ドネシア人の開拓者



アリス・ブルワー・セイリー

1950年、ベルナルト・レフランツはオランダのハーグにある自宅を訪れたふたりのアメリカ人宣教師の話を、最初は聞こうとしませんでした。母国のインドネシアでは訪問者を温かくもてなすことで知られたこの男性にとって、これはむしろ珍しい対応でした。しかし、ベルナルト(いくつかの国々の友人の間では「ベルト」と呼ばれていました)は、自分にはすでにこれまで幾度となく命を救ってくれた神がいる、信じていたのです。ベルトは以前、島の森林で狩猟中に野生動物に襲われ、第二次世界大戦中には、敵の前線の後方にパラシュートで降下し、最近もインドネシアで絶えず監視を受けていたときに暗殺者に発砲されるという危機に遭いましたが、いずれのときも命を救われたのです。難民キャンプでは、ベルトの信じていた神は妻や子供たちの命まで守ってくれました。そんな彼が、どうして別の宗教に耳を傾けられたでしょう。

宣教師が初めてオランダのレフランツ家を訪れたのは、1950年の暮れも押し迫ったころでした。レフランツ家族は1948年にオランダに越して来ています。高い靈性を備えたベルトの妻ノラは、神の慈悲と回復された福音のメッセージに感銘を受けました。ノラや子供たちは神の恵みによって、耐え難い苦難を乗り越えることができました。ノラはモルモン經を受け入れ、読むことを約束しました。しかし、ベルトの方は宣教師の訪問を知っても、かたくなに会おうとせず、またノラが熱心に読んでいる書物に関心を示すこともありませんでした。

末日聖徒の教えを宣べ伝える伝道者とその書物を受け入れることがもし単に勇気の問題であるとするならば、ベルナルト・ビレム・レフランツほど勇気のある人はいません。オランダ人、インドネシア人、フランス人を先祖に持つベルトは、インドネシアで数多くの難問に勇敢に立ち向かってきました。また、そのきわめて強靭な肉体によってインドネシアの住民たちには、超人的な力の持ち主としてその名が知れわたっています。さらにベルトは野生の豚を捕獲する競技の全国チャンピオンで、しかも素手で参加するのです。

ベルトが福音を聞こうとしなかったのは、無知のためでもありませんでした。ベルナルト・レフランツはその知性と受けてきた教育と寛容な性格のために、だれにでも親切な心の広い人物だからです。ベルトはオランダ政府の税関吏として働いているときに、上司の娘で、ノラという名の知性あふれるオランダ系インドネシア人の学校教師と出会い、結婚しました。最終的にはベルトは王立オランダ海軍の海軍士官になりました。ベルトとノラはふたりとも語学の才能に恵まれ、フランス語、ドイツ語、オランダ語、英語に加えて、インドネシアの島々で話されているいくつかの言語を話します。またふたりは共に、神の慈悲とキリスト教の原則に対する信仰を持てるように、子供たちを育ててきました。

ベルトにとって大きな障害となったのは、正しい宗教と誤った宗教に対する彼自身の確固たる信念でした。インドネシアにいるとき、ベルトはその土地特有の迷信的な信仰や交霊術にあまり良い感情を抱いていませんでした。ベルトはもっと高邁な真理を探し求めていました。一度仏教の僧侶になろうと考えたこともありましたが、この計画は放棄しました。僧侶になるには妻子のもとを去る必要があったからです。結局、妻のイエス・キリストに対する強い信仰の影響を受けて、彼自身も同じ信仰を持つようになりました。熱心に勉強したおかげで聖書にも通じるようになりました。

ノラはひとりでモルモン經を読み終えました。またひとりで宣教師からレッスンを受けていましたが、ある家庭集会の最後に、とても強くみたまを受け、バプテスマを受けたいと思いました。しかし、夫の改宗を待ちたいという気持ちもありました。夫は夜遅く、妻が寝静まったものと思い込んでこっそりモルモン經を読んでいたのです。小さな明かりをつけて、午前2時、3時ごろまで読みふけり、翌日は十分睡眠を取ったような振りをしていることがよくありました。ノラは忍耐強く夫の改宗を待ちました。

ノラは第二次世界大戦のときに、待つことを学びました。彼女の夫が戦死したものと思えたのも無理からぬことでした。危険をものともせずに武勇の誉れを立て、連合軍最高指令部ならびにオランダ政府から数々の勲章を

受けている勇敢なベルトは、イギリス兵に交じって日本軍の陣内へパラシュートで降下したのです。イギリス軍に雇われていたベルトの消息はその後途絶えてしまいました。4年間まったく音きたのない夫とはもう二度と会うことはあるまいと思いながらも、ノラはふたりの幼い子供たちを抱え、戦後、インドのボンベイ難民キャンプで露命をつなぎました。

ところが1946年のある日、ノラが数人の子供たちに勉強を教えていると、ひとりの男性が教室に入ってきて生徒たちの後ろに立ったのです。ベルトでした。ベルトはイギリス軍の任務を受けて、シンガポールに駐在していました。彼はそこで国内の難民キャンプのリストを捜して来ました。喜びに満ちた家族との再会を果たした後、ベルトは新たな任務を受けて今度は家族と一緒にセイロン(現在のスリランカ)に赴任し、その後インドネシアに戻りました。

ベルトはひそかにモルモン經を読み続けました。そして、隣の部屋から聞こえてくる宣教師のレッスンを聞くまでになりました。こうしてついに直接宣教師から話を聞くのを承諾してからは、とても頑固な求道者として知られるようになりました。あらゆる教義に関して聖書からの根拠を示すように絶えず要求し、レッスンを1年間も続けたのです。

その間に、ノラと娘のベルティーはバプテスマを受けました。ノラはその喜びを親しい人々に伝えたくて、ニューギニアにいる友人たちに、加わったばかりの教会について手紙を書きました。ところがすぐ2、3日後に、その友人たちからちょうど同じ時期に出した手紙を受け取ったのです。手紙の中には、ニューギニアに住むある漁師が海でモルモン經という珍しい書物を見つけたと記されました。「レフランツ家の中でだれかこの書物とジョセフ・スミスについて知っている人はいないでしょうか。これは確かに神の書物です。」友人の手紙にはそう書かれてありました。この友人たちは、オランダにいる友にあてて、モルモンについて何か知る手掛かりはないか尋ねてきたのでした。

友人たちのこの願いはベルトに良い影響を与えました。ベルトは友人の言葉に耳を傾けることを心得ていたから



です。ベルトが、1946年にシンガポールからインドネシアに戻ったとき、国内は政治的な混乱のさなかにありました。インドネシアの独立運動家たちはオランダからの独立を主張して戦っていました。彼らの気持ちは理解できるものであり、ベルトは共感さえ覚えました。しかし、彼は依然としてオランダ政府の軍人であり、独立運動を鎮圧し、狙撃兵を殺害する任務を受けていました。ベルトは彼らを捕らえると、命を救い、自分の家の畑で働かせていました。独立運動家たちが勝利を収めると、ベルナルトの家の畑で働いていた人物が新政府の役人となり、オランダ側であったベルトが銃殺されるべき人物のリストに入っているという情報を漏らしてくれました。10日後、レフランツ夫妻は3人の子供を連れて船でオランダへ発ちました。

ベルトが福音の高邁な真理に抵抗するのをついにやめたのは、まさにこのオランダの地でのことでした。ある日、長老たちからレッスンを受けていると、ベルトは自分の聖書をテーブルの上に置き、その上に片手を置いてこう言ったのです。「もうほかに、皆さんに尋ねることはなくなりました。」こうしてベルトは1952年3月にバプテスマを受け、その後1年もたたずみ、ハーグ支部の支部長に召されたのです。

かつて密林や敵地をくぐり抜けてきたベルトの不屈の精神と強固な意志の力は、回復されたイエス・キリストの福音の中で目的を見いだしました。ベルトとノラは忠実な僕となり、オランダにおいてだけではなく、後に、1954年から1956年までオランダ政府によって派遣されたニューギニアでも、開拓者となって働きました。ニューギニアでは家族とこの地に駐在するほかのふたりの会員のために、レフランツ夫妻は自分の家で日曜学校を開き、聖餐会を行ないました。ベルトはほかの海軍将校たちにも福音を紹介したり、月に1回、地元の僧侶や教会の牧師たちを招いて集会を開き、福音の回復とモルモン經について教えたりしました。

家族に対する神の慈愛をいつも忘れたことのないベルトとノラは、神の愛と寛容さを模範によって示し、その公正さと親切、広い心によってどこへ行っても評判になります。ベルトは機会があればいつでも熱心に福音について語ります。彼はニューギニアを去る前に、神の王国の建設を願って教会の書籍やパンフレットを多量に配布しました。

1956年にオランダに帰国したレフランツ家族は、今度はアムステルダムに居を定めました。ベルトはそこで再び支部長に召されます。1960年に家族がまたハーグに戻ると、ベルトはヨーロッパで最初に組織されたステーキ部、オランダ・ハーグステーキ部の副ステーキ部長に召されました。ベルトはこうした召しを熱心に果たしました。ベルトの子供たち——フランク・コルネリアス、ベルティー・ルイーズ、エリック・ヘラルド、ロバート——はいつも父親のそうした熱意を感じていました。「私の両親は共に真の建設者、真の開拓者でした。ふたりともいつも勤勉に働き、福音に対する愛に満ちあふれています」とベルティー(現ジャック・P・バン・オートホーデン夫人)は回想しています。

1971年の8月にノラが亡くなると、バスが満員になるほどたくさんの人々が葬儀に駆け付けてきました。1985年の1月にはベルトの葬儀が行なわれましたが、その日はひどい吹雪で、横殴りの雪で埋葬ができないほどでした。にもかかわらず、大勢の人々がいてつくような天候の中をはるばるやって来て、友人のために弔辞を述べていきました。

オランダでは、ベルナルト・ビレム・レフランツが旅し、住んだほかの国々と同じように、彼のまいたたくさんの種が、今、豊かに実を結んでいます。そして、人々は国境を越えた開拓者、主の僕としての彼の働きをたたえているのです。□

\*アリス・ブルワー・セイリー姉妹は現在、夫と共に神殿宣教師として働いている。プロボ・グランドビューステーキ部グランドビュー第2ワード部所属。セイリー姉妹は、1952年にオランダでアメリカ大使館付陸軍士官の秘書を務めており、当時教会に改宗したばかりのレフランツ夫妻に出会った。





## 心の耳で 聞きなさい

アン・C・ブラッドショー

**音** の世界から完全に遠ざけられた  
美しく若い3人の姉妹が、一体  
どのようにして自信と喜びにあふれた  
よどみのない話し方を身に付けたので  
しょう。

答えはこうです。忍耐にあふれた信  
仰と努力、両親、姉や妹、教師、天父  
からの愛ある助けがあったためな  
です。

北アイルランド・ベルファストステ  
ーキ部バンガー支部には、生まれたと  
きから聴覚障害を持ったファーガソン  
家の3人の姉妹、デボラ(23歳)、ジュー  
リー・アン(18歳)、ヘザー(15歳)がい  
ます。ファーガソン家にはほかにも22  
歳のアマンダと20歳のゲイルがい  
ますが、父親のピーターや母親のリリアン  
と同様、聴覚は正常です。しかし、祖  
父母はやはり生まれながらのろうあ者  
です。

しかし、この特別な家族には意思の  
疎通についての問題はありません。彼  
らの生活には、主に対する固い信仰と

デボラ、ジュリー・アン、(挿入写真)  
ヘザーのファーガソン3姉妹は、  
人々が耳と心を傾けてくれるなら、  
思いを伝える  
様々な方法を知っています。



決意という奇跡が生きているからです。

デボラのたくさんの実績がそれを示しています。持ち前の明るい性格と、何事にも精一杯取り組む熱心な姿勢が、いくつかの聴覚上の困難を取り除いてきました。デボラはセミナリーを卒業して以来、教会のスカウトプログラムに参加していて、今も指導者の補佐としてその責任を果たしています。

ほかにも、サッカー、バドミントン、スカッシュ、水泳などのスポーツで受賞した大小様々なトロフィーが、デボラの努力の跡を表わしています。

若い女性会長のゲディス姉妹はこう語ります。「青少年のダンスパーティーでは、ビートに乗って音楽に合わせるのは、デボラが一番上手でした。」

デボラはそれをこう説明します。「音は聞こえないけど床の振動を感じ取れるので、よく注意すれば、皆と同じようにうまく踊れるんです。」

デボラは勉強であろうとダンスであろうと、教会が提供するどのようなプログラムにも何の支障もなく参加しています。「宣教師になりたいんです。奉仕するのが好きだし、聴覚障害を持つ人々にどうしても福音を宣べ伝えたいのです。」デボラはそう語ります。

デボラの妹のアマンダも同じように考えています。アマンダの聴覚には何の障害もありませんが、家族が自分の立てた目標を達成している姿を見て、恵まれない境遇にある人々の助けになりたいと心に決めています。アマンダは今、手話通訳や特殊教育教師の資格を得るために、大学で3年間にわたるろうあ者のための手話の教科課程を受けています。

アマンダはこう語ってくれました。「姉や妹と同じように耳の不自由な祖父母、おじ、おばに、まず福音を伝えたいのです。彼らには今以上に大きな祝福が待っていると思います。真実を知ることができるよう、ぜひ手助けをしたいのです。」

ゲイルにとっても勉強、特にセミナリーの学習は生活の中で大切な役割を果たしています。「セミナリーはと

てもすばらしいプログラムです。私はその中からたくさんのことを学んでいます。聖典の中の人物が経験したことを見て、私は家族の気持ちや苦労が理解できるようになりました。」

ゲイルには上手に子供の世話をするすばらしい才能があります。長年、妹たちの「耳」の代わりを務めてきたために、忍耐ややさしさ、人の必要に対する鋭い感受性が自然に身に付いたのです。

ジュリー・アンとヘザーは「耳」代わりとなって助けてくれたアマンダやゲイルと会えずに、毎年何ヵ月も寂しい思いをしています。ふたりは家を離れて、イギリスのニューベリーにある聴覚障害者の学校として名高い、メリーアー・ヘアー英国中等学校に入学しました。学力の水準がきわめて高く、この優秀な学校に合格するだけでも至難の業であるのに、家族の中でふたりも入学するのは奇跡に近いことでした。

父親のファーガソン兄弟はこう語っています。「子供たちに家から遠く離れた地で教育を受けさせることは、家族全員にとってつらい経験です。でも、祈りを通して私たちは、平安と、この決断は正しいという確信を得ています。」

ジュリー・アンは次のように話してくれました。「週に1、2度、家族に手紙を書いています。それに学校の特殊な電話で、生徒と通訳者と両親の三者が同じラインで話せるので、どんな問題が起きても家族の助けなしで長い間なおざりにされることはありません。」

ヘザーもまた次のように語っています。「ニューベリー支部のウィリアムズ兄弟姉妹は、毎週日曜日になると教会に行くために迎えに来てくれます。私たち、それを楽しみにしているんです。教会員の間にはとても温かい雰囲気があるんですよ。」

ジュリー・アンはこう言います。「救い主とその教会について、できる限り学びたいんです。私は家庭学習セミナリーを受けていますが、とても役立っています。聖餐会では、特に話者の言葉が聞き取れないときなど、ち

ゲイルとアマンダ（左）は、  
周囲で耳にする音を姉や妹たちが  
理解できるように助け、  
父親のピーターと母親のリリアンは、  
娘たち全員に天の父母と  
地上の両親の双方から  
愛されていると教えていました。

よつとイライラすることがときどきあります。周りの人々が私のために親切に話の内容を書いてくれますが、話者が話し方が早すぎて詳しくわからないことがときどきあるんです。」

それでもふたりは読唇術にたけており、補聴器も使用しています。ふたりとも相手の話を理解する力を急速に伸ばしていて、外国語、つまりフランス語まで学び始めています。「むずかしいです。聴覚の正常な生徒よりももっと一生懸命集中しなければならないんです。」ヘザーはそう言っています。

彼女たちは幼いころから音楽を目で読み取ることに慣れています。「母はよく、教会の賛美歌の本を見ながら音符がどのように上がり下がりするのか教えてくれました。周囲の人たちの歌声でピアノの音がかき消されない限り、私はピアノの振動を感じ取って賛美歌を歌うんです」とジュリー・アンは言います。

ヘザーもこう述べています。「私たちはそれと同じ方法でリコーダーを吹きます。音の振動を足全体で感じ、練習を重ねて正しい音をつかむんです。なかなかすてきなオーケストラがここで組めるんですよ。」

ジュリー・アンもヘザーもデボラも、自分の才能を使って聴覚に障害のない人と同じか、それ以上の力をしばしば発揮しているにもかかわらず、自分たちの障害に対する多くの人々の偏見に、ときどき落胆したり傷ついたりすることがあります。

ヘザーはこう語ります。「ほかの人と同じように扱ってほしいと思います。人込みで話しかけられるとき、相手にとてもゆっくりした話し方で、腕をあげたりして大きめの表現の仕方をされると、とても恥ずかしくなることがあります。まるでこちらをさげすんで、そうでもないと私には通じないとでも思っているみたいになのです。」

ジュリー・アンも同じように言います。「同感ですね。仲間のひとりとして受け入れられ、普通に声をかけられ、変わり者のような見方をされないといいんですけど。私

なんか『中身はあなたと何も変わらなのよ』って、ときどき人に向かって言いたくなることがあります。怖がれたり、理解するのを拒否されたりすると、胸が痛んで落ち込んでしまうんです。」

ヘザーは続けて言います。「本当にそう思います。私は相手の質問を必ずしも一度だけで理解できないことがあります。そんなとき、もう一度言ってくれるように頼むと、『気にしないで』と言って、行ってしまうんです。何度も試してほしいんです。それでお互いにもっと知り合えるのですから。『やあ』とか『元気?』といったあいさつを交わすだけの短い会話は好きじゃありません。何度も意見が交換できるきちんとした会話、性急でもゆっくりでもなく、豊かな表情や感情表現を伴った本当の会話がしたいのです。」

耳が不自由なために生じるある種の孤立のせいでしょうか、3人の少女は皆、天父と親密で個人的な関係を築いています。

ジュリー・アンはこう語ります。「私は祈りを通して主とお話をすることに多くの時間を割いています。聖霊の力を強く感じ、みたまの導きにいつも感謝しています。みんなで総大会のビデオを見ました。標準を高く保ち標準の低い人々との交わりを避けることについての説教を聞いていたとき、私は自分の中で温かいものを感じました。これが重要な勧告であることをみたまが証していたのです。涙があふれそうでした。そのときのすばらしい気持ちを失いたくありません。」

ファーガソン家族を見ていると、あたかも予言が成就したかのようです。予言者はイザヤ書29章18節で「その日、耳しいは書物の言葉を聞き」と記しています。ファーガソン家族は自分たちが福音の真理を聞いただけではなく、十分な教育を受けて、耳、目、手、心をもって聞きたいと待ち望んでいるすべての人々にこれらの言葉を伝えようと、今、備えをしているのです。□

# 家族の絆を強めるための鍵

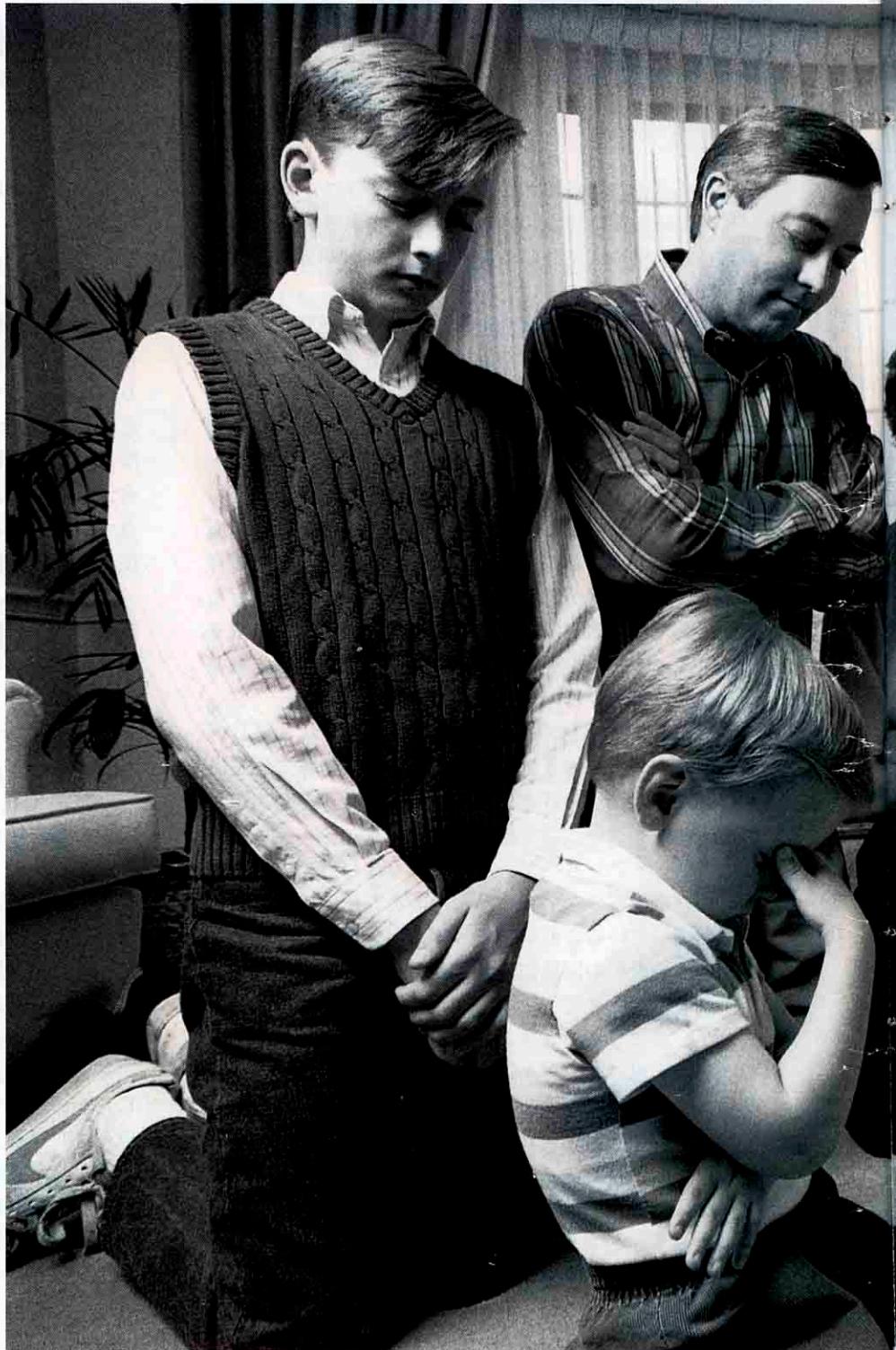
ウィリアム・G・ダイヤー、フィリップ・R・クーンズ

ある調査によって明らかになった末日聖徒の家族を強めるいくつかの基本原則

**家**族に関する最新のレポートの多くは、私たちが今日いろいろな問題を抱えていることを浮き彫りにしています。たとえば、離婚、妻や子供に対する虐待、薬物の乱用、近親相姦、自殺などといった問題です。このような問題について考えると、次のような疑問がわいてきます。強い絆で結ばれている家族がはたしてあるのか。もしもするとすれば、その秘けつは何なのか。

私たちは、堅固な末日聖徒の家庭に共通して見られる特徴を知るために、ある調査を行ないました。その調査は、アメリカ合衆国の各地で働くステーキ部長に提出してもらった、各ステーキ部で最もすばらしい模範を示している15家族のリストに基づいて行なわれました。(これらの家族は合衆国内の家族ですが、そこで明らかにされた基本原則は、世界中の末日聖徒の家族に共通のものです)調査の結果、ステーキ部長によって選ばれた200の家族は、その大半が教会で熱心に奉仕し、親子間には強い信頼関係が培われていました。

私たちの行なった調査は、まだ独立していない子供(結婚や伝道、あるいは大学進学を控えた年齢の子供)が少なくともひとりいる家族を対象としました。いろいろな調査や面接の結果を分析したところ、すべての家族に共通する12の要件を見いだしました。ほとんどの家族が、これらの要件をかなりの程度満たした生活を送っていました。詳細な点で多少の違いはある、基本的な点では著しく似通っていたのです。





### 1. イエス・キリストの福音に従う

両親が、家族全員で活発に教会活動にかかわっていこうと決心していることが明らかです。

このような両親が、教会員として実行しようと決意したおもな事柄に次の3つがあげられます。(a)教会の集会に出席する、(b)什分の一を完全に納める、(c)教会の責任を喜んで引き受ける。この3つはほとんどすべての家族が守っているものでした。

ある家族はこのように言っています。「私たちの家族にとって最も大切なものは、福音に従うときに感じるあのすばらしい幸福感です。私たちは人生に目的があることを知っていますし、子供たちが大切な存在であることも知っています。天父はいつも私たちのそばにいてくださいり、私たちはみずから責任を果たすときに、天父の助けに頼ることができます。また、隣人が所有しているものを持っていなくても幸福を感じることができます。というのは、より大きな家や財産よりも、子供を助け導くことの方が、はるかに大切だということを知っているからです。伝道、神殿結婚、そして、親子の絆を強めることこそ人生で最も価値あることなのです。」

調査の対象となった家族のうちの73パーセントが、毎日、あるいは、ほとんど毎日朝夕家族の祈りを捧げていました。一緒に祈る機会がたまにしか持てないと答えた家族の多くは、各自のスケジュールがなかなか合わず、全員が集まりにくいためでした。ある両親はこのように語っています。「私たちの家では、できる限り機会を見つけては、家族で祈ることにしています。でも子供たちはそれぞれ仕事の時間帯が

異なるので、なかなか朝晩一緒に祈ることはできません。同じ時間に皆が家にいることはほとんどありませんが、毎週日曜日には必ず家族で祈っています。」

家族全員で家庭の夕べを開いたり、聖典を読んだりする場合にも、同じように時間が合わないという問題が出てきます。しかし、66パーセントの家族が、毎週あるいはほとんど毎週家庭の夕べを開く、と答えました。あとの3分の1は、ときどき開くということでした。

毎日の聖典勉強ということになると、これを実行している家族は、わずかに30パーセントほどで、あの家族は、ときどき読むということでした。

こういった家族の両親が示す信仰を裏づける共通の経歴が何かあるかというと、一切そのようなものはありません。逆に、その経歴は多岐にわたっています。第二次世界大戦と朝鮮戦争のために、伝道に出られなかった父親が半数います。また、半数はセミナリーを卒業しており、20パーセント以上の親が8歳を過ぎてからバプテスマを受けています。もちろん、数世代にわたって教会員であり、子供を育てるうえで大切な伝統を受け継いできた活発な末日聖徒の家族に生まれ育った、という両親が多いのは確かです。しかし、そのほかの両親は、家族全員が教会員ではなかったり、お休み会員だったり、あるいは自分だけが教会員になったりした人です。

## 2. 家族の中で愛と一致を示し合う

教会が及ぼす力強い影響力の次に、これらの家族にとって絆を強めるうえで最も大切な要素は、愛と一致の精神です。ある家族は次のように言っています。「私たちは家族で一緒に過ごすのが大好きです。何と言っても、互いに行き来し、話し合い、一緒にいられることほど楽しいことはありません。永遠に一緒にいたいと心から願っています。」

ほとんどの家族にとって、愛や励まし、家族の一一致といったものは、自然と生まれたものではなく、計画と努力の結果得たものでした。両親が子供たちに、お互いに励まし合うことを教えていたのです。たとえば、兄弟の中のだれかが何かの活動に参加するときには応援に行くなどです。

家庭の外で支え合う以外に、家族単位で共に働き、共に遊ぶこと、これも大切な活動です。また、可能な限り、





家族そろって休暇を過ごすことで、皆がひとつとなることができます。

### 3. 目標がある

これらの家族は、自分たちがどういう方向に進もうとしていて、どんな目標を達成したいのか、はっきりとした見通しを持って歩んできたようです。

どの回答者も、自分たちの子供に望むものとして、十分な教育、神殿結婚、高い自尊心を持つこと、自分の可能性を信じること、家族の一致を尊ぶこと、教会への奉仕、伝道、良き市民であること、などをあげていました。

家族として望むことについて、家族で話し合い、家族が将来永遠にわたって共に住むという理想を持って進んでいるのです。そして、その理想を実現するためには具体的にどのような目標を立てたらよいか、子供が小さいうちから家族で話し合うのです。こうして子供たちは早い時期に伝道や神殿結婚の準備を始めるのです。小さな子供ですら家族の目標について明確に答えられたのも、もっともなことと言えましょう。

### 4. 教え、語り合う

これらの家族は、子供たちと話し合い、子供たちを教え、子供たちがそれぞれの悩みを解決できるように助けることに多くの時間を費やしています。ある家族は、このように語っています。「お互いが自由に感じたこと、問題、目標、悩み、喜びについて話せること、これは私たち家族にとって何より大きな財産です。私たちは、働いているときにも、遊んでいるときにもよく話し合います。ときには、食事が終わったあとも、食卓で1時間ぐらい話すことがあります。いろいろな事柄について調べたり、声に出して本を読んだり、あるいはまた、楽しいおしゃべりをしたりします。

このような家族の集いを通して、古典、自伝、詩集などの良書に触れる機会を多く持つことができます。これに加えて、97パーセントの家族が教会の出版物を定期的に購読しています。

これらの家族がテレビを見る時間は、一般の家庭の平均以下です。テレビを見る際に番組を選んで見せているか、という問い合わせに、ほとんどの親が、そうしていると答えました。しかし選んで見せるといつても、両親はこれら

かの指針を子供たちに与え、その指針に従うか否かは子供たちを信頼して任せるということです。ある親は次のように語っています。

「学校でのアンケート調査で、『あなたの好きなテレビ番組は』という問いに、うちの子供は全員『ニュース番組』と答えました。それはおそらく、私たちの家ではニュース番組を皆で一緒に見て、その日の出来事について話し合う習慣があるからでしょう。」

## 5. 規則は少ないが、期待は大きい

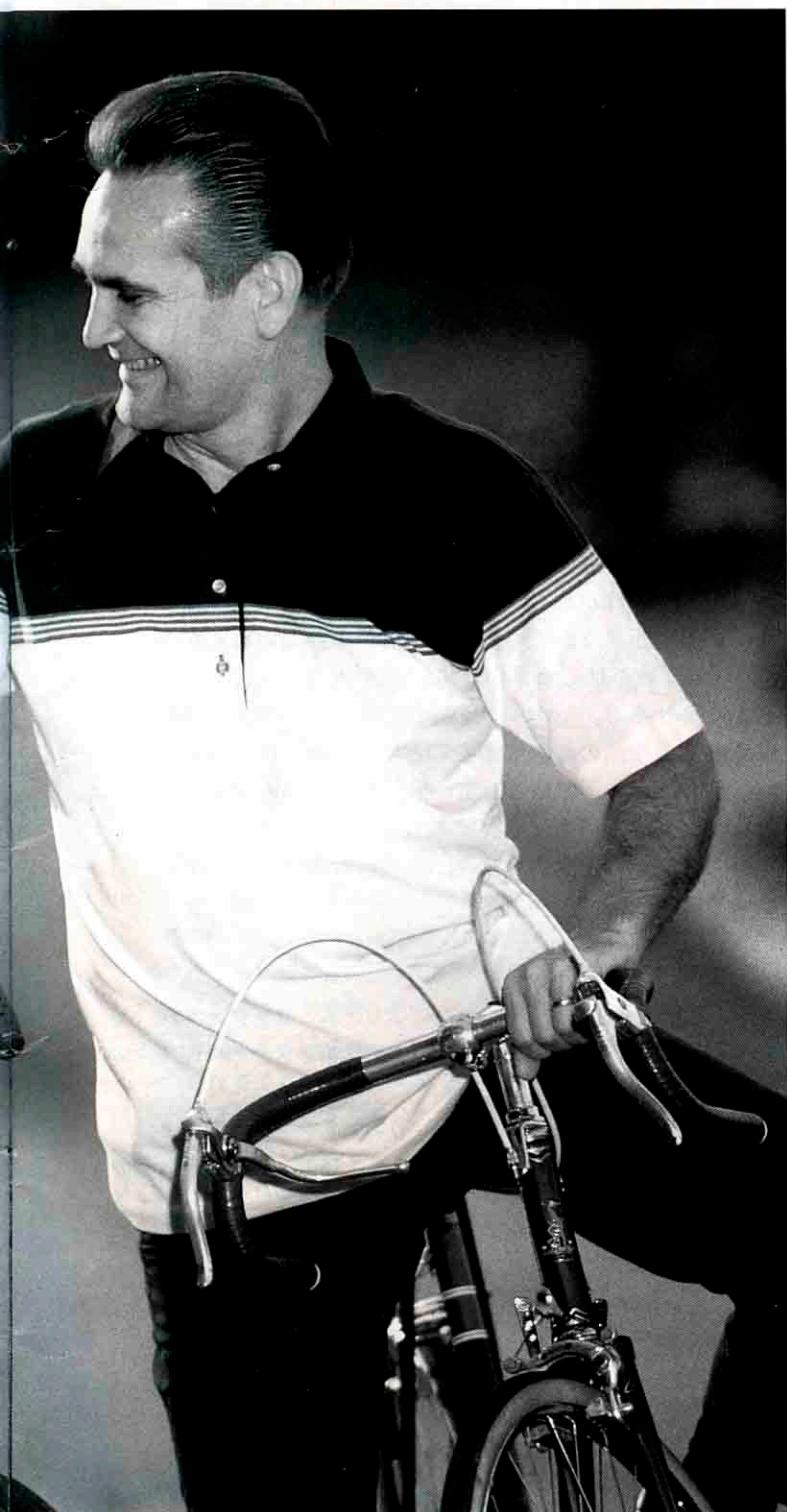
ほとんどすべての家族には、3つの規則があります。  
(a) 家族が互いに敬意をもって接する、(b) 外出時に行く先と帰宅時間を両親に伝える、(c) 正直で信頼される人間になる。

子供たちは成長していく過程で、両親が自分たちに何を期待しているかを学びます。ある若者はこのように述べています。「私は友人から、日曜日の午後に映画を見に行かないか、と誘われました。私が断わると、彼は『なぜだい。それは君の家の規則なのかい』と尋ねました。私は友人の質問について考え、確かにそれは我が家の規則だったということを悟りました。しかし、それが規則だと言われたことはありませんでした。ただ、そういうことは家族のだれも決してしなかったのです。」

## 6. しつけは厳しいけれども公平である

これらの親は、おもに話し合いによって子供をしつけます。子供たちが、なすべきことをしない場合には、両親は何らかの行動をとる必要を感じます。97パーセントの親は、まず最初にとる行動として、説得をあげています。もしその方法で良い結果を得ることができない場合は、普通何らかの特権を取り去ります。最終的には体罰を加える人もいますが、それは小さな子供の場合に限ります。ただし、45パーセントの親は、決して体罰を加えないと言っています。不従順な行動に対して子供を罰する代わりに、ほとんどの親は、子供が正しい行動をするように仕向けるような励ましや報酬を与えています。従順だったときに、褒めたり、特別なごほうびをあげたりするのです。





## 7. 愛を示す

これらの家族は、愛や称賛の気持ちを率直に表わしています。自分の気持ちを表わすには、次のような方法がよく用いられます。(a)家族の一人一人に個人的に伝える、(b)いろいろな助けを与える、(c)軽く抱く、(d)手紙を書いたり、電話をかけたりする、(e)生活に必要な品物を与える。

私たちの質問に答えてくれた家族は、愛や承認の姿勢を示すのに、称賛や愛の気持ちを言葉で表現したり、相手の役に立つことをするという方法をよく用いていました。

話を聞いてみるとこれらの家族が心を開いて愛を表わす方法はそれぞれ異なっていることがわかりましたが、明らかにどの家族も、言葉や行動で愛の気持ちを十分に表わしていました。

## 8. 試練の時に、互いに助け合う

強い絆で結ばれた家族に見られる最大の特徴は、問題に直面したときに皆で協力し合うということです。これらの家族は皆困難や苦しみを経験していました。しかし、逆境に打ち負かされるのではなく、逆境を通して共に成長しているようでした。ほとんどの場合、いろいろな問題があっても、それを必ずしも逆境とはとらえていないのです。ある父親はこのように語っています。「私の息子は家出をし、一番下の娘は癌の宣告を受けました。また、酒や麻薬を始めた息子もいました。そんな矢先に私の仕事もうまくいかなくなり、共同経営者には逃げられ、あとに残ったのは負債だけになりました。」この父親が逆境に立ち向かうときに示した姿勢は、調査の対象となつた多くの家族に共通して見られるものでした。すなわち、主を信頼して祈りを捧げ、断食をし、信仰を行使し、「腰を引きからげ」(教義と聖約27:15)、続けて忍耐し、子供たちを一堂に集めて問題について話し合ったのです。

## 9. 家族以外の人にも援助の手を差し伸べる

これらの家族は、一緒に住んでいる家族だけでなく、家を離れていった人や、おじ、おば、祖父母、いとこなどの親戚とも交流を続け、助け合っています。

両親の84パーセントは、子供たちに対する友達の影響力が大きいと答えました。両親は、子供たちの友人を家

族の活動に招待し、彼らがどういう人で、どのように振る舞うか、またどんなことをしているかを知ろうと努めていました。

#### 10. 家庭は忙しいところだということをわきまえている

これらの家族は全員、家庭、仕事、学校、教会でいろいろな活動に参加していました。世間から孤立したような生活はしていませんでした。様々な活動を通して互いに助け合うために働いていたのです。

子供たちは、大抵ボーイスカウトなどの家庭外の活動のうえにスポーツやそのほかの学校活動にも参加していました。

#### 11. 働く

これらの家族のほとんど全員が、子供たちに家事を分担させていると答えました。ほぼ全員の回答から、両親は子供の労働習慣に关心を向けていることがわかりました。77パーセントの家族は、子供たちが家事を手伝うと答えました。家事を担当する割合が最も少ないのは年上の子供(帰還宣教師の場合が多い)で、一緒に住んではいても、仕事に出たり、学校へ行ったりしていました。注目に値するのは、60パーセントの両親が子供たちは喜んで手伝いをすると言ったことです。しかし、残りの40パーセントの家庭では、子供たちに家事をさせることが時としてむずかしいということがわかりました。

子供の小遣いについては、43パーセントの両親が与えていましたが、57パーセントは与えていませんでした。これらの家族では労働に対する価値観が強いのです。40パーセント以上の家族が、お金をあげる場合にはそれに見合う労働を要求すると言いました。大部分の子供たちはある年齢に達すると、アルバイトとして家庭外でちょっとした仕事をすると答えました。

#### 12. 両親が互いに愛し助け合う

200の家族すべてに、夫婦間には伝統的な役割分担があるという考え方をおおむね受け入れる姿勢がありました。妻も仕事を持っている場合がかなりありました。女性の第一の責任は家庭の中にあると考えられていましたが、子供を教え、しつけるのは両親の仕事でした。

ある夫婦は次のように語っていました。「私たちは、ずっと以前に愛し合うようになり、この世でも来世でも協力して働く決心をしました。時には問題もありましたが、それらを解決するよう取り組んできました。そして、月日を重ねていくうちに、より深く愛し合うようになりました。ほとんどの子供たちが思春期に入ると、非常にいろいろな経験をいくつかしましたが、何とか切り抜けてきました。私たちが互いに心から愛し合っていることが子供たちにもわかるのです。私たちは何でも話し合って、自分の気持ちを相手に伝えるのです。そして一緒に祈り、家族についていろいろな計画を立てます。私たちは主が家庭においても、子供についても私たちのことを助けてくださると思っています。」

これらの両親は、立派な家庭を築くことに重点を置いています。皆、自分の弱点や短所を認め、自分が完全だと主張する人はだれもいません。自分の家族がうまくいっているのかどうかについても自信がないという人が多いのです。彼らはこう言います。「孫が大きくなるまではわかりませんよ。」とはいって、福音の標準に従うよう努めることが、生活の基本であることに変わりはないのです。

彼らは、また、家族として一致したいと望んでいます。今まで述べた目標に忠実であろうとしている家族は、概して幸せな結婚生活を営み、充実した人生を送っているようです。□

\* ウィリアム・G・ダイヤー兄弟：ブリガム・ヤング大学経営学部名誉学部長、ブリガム・ヤング大学第1ステーキ部ステーキ部長。

フィリップ・R・クーンズ兄弟：ブリガム・ヤング大学社会学教授、プロボ・エッジモント南ステーキ部エッジモント第8ワード部所属。

# 教会で話をするための提案

**皆**さんは、教会の集会で話をするように頼まれることがときどきあるでしょう。そしてそのような機会はこれからも必ず来ます。でも、自分に準備ができるか、聴衆を引き付けるような話ができるか、不安はありませんか。以下に紹介するいくつかの簡単な手順に従えば、満足のいく話を準備するのに役立つことでしょう。

1. テーマを選びます。すでにテーマが与えられている場合は、主題を絞ります。このとき、自分の立場からだけではなく、聞く人の立場や関心、必要も考慮します。

2. 話の目的をはっきりさせます。あなたが決めたテーマで話をすることによって、何を伝えたいのでしょうか。

3. そのテーマに関する情報を収集します。聖句、物語、引用文、実例、統計資料、証など、あなたの目的を達するために役立つものを集めます。

鏡の前で練習を

してみてください。

聴衆の反応を

想像しながら、

リハーサルを

します。

4. 話の材料をわかりやすく、論理的に構成します。(a)聖句の引用、物語、実例の紹介、問い合わせ、そのほか聴衆の注意を喚起するような方法を用いて、話のテーマを紹介します。(b)あなたの話の目的を述べます。(c)目的を達成するために役立つ概念を、例をあげたり描写したり説明したりして、展開していきます。割り当てられた時間の長さに合うように話の材料を組み立てます。(d)要点をわかりやすく、はっきりと繰り返して話をまとめます。

5. 話の練習をしてください。だれかに聞いてもらうか、鏡を前に置いて練習してみてください。聴衆の反応を想像しながら、リハーサルをします。

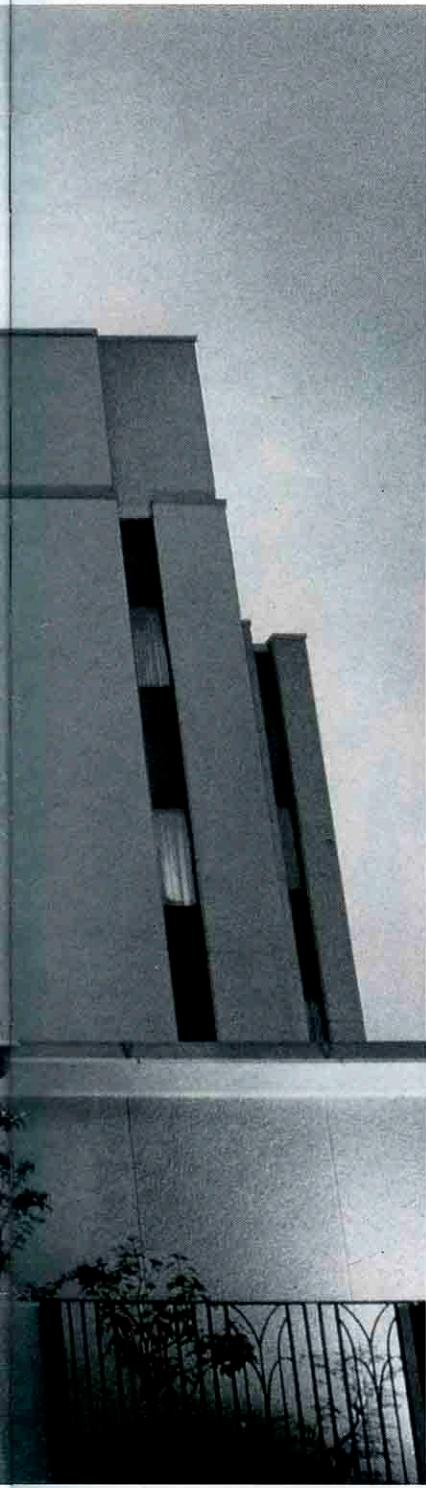
ここまで準備をしてもまだ不安は残るかもしれませんのが、適切な準備を行なえば、本番での話は意義あるものとなるでしょう。□





# 最もすばらしい場所

アン・レムリン



中村夫妻は、神殿宣教師の召しを受け入れようと決心しました。それまでの生活を一変しなければならないことは十分承知していましたが、それでも価値ある業であることを知っていたのです。

**中** 村良昭兄弟にとって、犠牲という言葉は苦難を意味するものではありません。むしろこの世的な事柄を犠牲にして得られる靈的な祝福に、彼はこの上なく大きな喜びを感じているのです。

中村兄弟は、日本では有数の著名な心臓外科医でありながら、東京神殿で奉仕するためにその仕事を引退しました。「定年退職まで、まだ10年はあったのですが、私たち夫婦はそれよりも神殿で奉仕することを望みました」と彼は語っています。

確かに引退の決意をするのは容易なことではありませんでした。みずから望んで心臓外科医になり、その職を全うしてきたからです。しかし主は何らかの目的があつて、自分を教会に導かれたのだとの確信がありました。

1956年、中村兄弟は熊本医科大学を卒業後、東京女子医科大学を訪れました。そこで心臓手術を目にして非常に感銘を受けた彼は、心臓外科医になる決意をしたのです。その後5年間の集中訓練を受け、その間に研究的目的でニューヨークを訪問しました。渡米前に友人のひとりが、帰りにはソルトレークシティーに立ち寄り、美しいモルモンの神殿を見てきらいいと勧めてくれました。

結局、ソルトレークに寄ることはできなかったのですが、友人のその言葉は後になって彼の人生を大きく変えることになりました。

「1971年の4月のことです。ふたりの若者が『私たちはモルモンです』と言って熊本にある私の家を訪れたとき、友人がソルトレークシティーとモルモンについて話していたのを思い出しました。私は常日ごろ、医者には宗教はいらないと考えていたにもかかわらず、彼らの話には大変興味を覚えました。仏様や神様にすがる必要などないと思っていたんですけどね」と中村兄弟は当時のこと回想しています。

「宣教師の第一印象がとても良かったのです。彼らは二十歳そこそこの若者であるにもかかわらず、親切で大変礼儀正しい人たちでした。それに彼らの話には考えさせられる何か深いものがありました」と中村兄弟は語っ

ています。「レッスンを受ければ、自分の子供たちもきっと彼らのような人間になれるだろうと思って、話を聞いてみることにしました。」

宣教師が再び訪問したときから、家族全員でのレッスンが始まりました。中村兄弟は当時のことを次のように回想しています。「宣教師が質問をすると、いつもふたりの子供のうちどちらかが必ず的を射た答えをしたものでした。私と家内は子供たちがなぜ真理に添った答えをするのかが不思議でした。私たちはよく理解できずにあいまいな答えしか出せませんでしたからね。謙遜な気持ちになりました。子供たちがきちんと真理を理解していることに心を動かされたのです。」

中村家族が特に感動したのは、教会が家族をとても大切に考えている点でした。「家族は家庭生活の中で一番大切なものです」と中村兄弟は語ります。「宣教師からレッスンを受けることによって、家族がもっと幸福になればと思いました。」

1971年7月、中村家族はバプテスマを受けました。その年の9月には、中村兄弟は初めて心臓手術を行なっています。「まるで主が私の恐れと不安とを取り除いてくださったかのようでした」と彼は言います。「もし心臓外科医が救い主に対して信仰を持つならば、神様からいただいた特別な力をきっと感じることでしょう。」

中村兄弟は教会員としての生活が長くなるにつれ、神殿で結び固めを受け、その神聖な建物の中で主に仕えたいという気持ちが次第に募ってきました。その後1973年(東京神殿が献堂される7年前)には、中村家族はカリфорニアに行き、ロサンゼルス神殿で結び固めを受けることができました。

神殿へ向かう途中、危うく飛行機に乗り損ねそうになったり、また無事に目的地まで着けるものかと不安になったりしたことがありました。しかし安全を願う彼らの祈りは聞き届けられました。中村兄弟は、その旅行がどんなに重要なものであったかを回想しながらこう述べています。「旅行から帰ってくると、私は将来妻と共に神殿





中村ご夫妻（右）、長女の七  
條 公美姉妹と夫の七條典  
明兄弟、孫娘の愛理ちゃん。  
（この写真には写っていないが、  
中村夫妻には長男の徳志兄弟がいる）



で奉仕することこそ、自分の最大の目標だと確信しました。」

中村夫妻は、神殿宣教師の召しを受け入れようと決心しました。それまでの生活を一変しなければならないことは十分承知していましたが、それでも価値ある業であることを知っていたのです。

召しを受ける前、中村兄弟は仕事と教会の責任で多忙をきわめっていました。勤務先の病院の院長であり、また看護学校の校長も務めながら、みずから教鞭を執っていました。一方、教会では副伝道部長と地方部長の責任を兼任していました。その上、中村家では彼の助けを求める電話が昼夜を問わず、ひっきりなしにかかるといった状態でした。

「神殿では深夜に電話がかかってくることはありませんからね」と中村兄弟は言います。「神殿の最もすばらしいことは、そこが主の宮居だということです。神殿には平安が満ちあふれています。今の私の毎日は靈的な基盤に支えられています。神殿の儀式はすべて主に仕えることだからです。」

先祖の身代わりとして働くということは大きな特権です。それは『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』（マタイ25：40）と主が言われているとおりです。

私が病院の仕事と教会の責任で忙しかったころ、ずいぶん長い間、妻にひとりで寂しい思いをさせてしまいました。ですから、今いつも一緒にこの神聖な場所で働くということは、私たちにとって本当に幸せなことなのです。」

召しを終えるに当たって、中村兄弟はまた医師の生活に戻ろうとしていますが、今度は以前のような公立の病院ではなく、高齢者のために働きたいと望んでいます。

「神殿での奉仕は伝道の業でもあります。それはまさに神様に仕えることなのです。」中村兄弟はこのように続けます。「神殿は奉仕をするのにも、働くのにも、また人生を過ごすのにも最もすばらしい場所です。」□

# 人が見ていても

マリアン・E・フ林ト

ア リゾナ州の自宅を後にし、何人かの親しい友達と楽しんだニュージーランドへの旅行は、どの点を取ってもすばらしい経験でした。その中でひとつ、忘ることのできない特別な体験をしました。私はその体験を通して正直の大切さだけではなく、現世で悔い改めることの重要性についても証を強めることができました。

あと3日後にはニュージーランドをたって、帰国の途に就くという日のことでした。ホテルの駐車場で、私は自分の運転するレンタカーを別の車に接触させてしまいました。ほとんど損傷はなく、相手の車のボディーの塗装がかすかにはげた程度でした。それでも自分の責任と、お金もわずか4ドルしか残っていないことを考えると、気が重くなりました。

夜も遅かったので、事故のことを知っているのは私の車に同乗していた友人だけでした。自分の部屋に戻る途中、様々な思いが次から次へと浮かんできました。

「こんなことはよくあることだし、だれもいちいち気にしてなんかいないわ。大きな傷じゃないし、だれがしたのかもわかりっこない。第一、持ち主がこれをいいことに塗装を全部替えようとして、何百ドルも要求してきたらどうしたらいいの。」

私は自分の部屋に入るとすぐにひざまずきました。このまま何もしなくとも構わないということを示してくださるように天父に祈ろうと思ったのです。ところが目を閉じた瞬間、正しくないことを天父に認めてもらうように願うことはできない、ということに気づいたのです。その代わり私はすぐに、正しいことを行なえるように助けを祈り求めました。

祈りの答えを待つまでもなく、私は自分が何をしなければならないのか初めからわかっていたのです。私は早く立ち上がり、自分がしたことと傷の箇所、そして自分の部屋の番号と、車の持ち主に連絡を入れてほしい旨をメモに走り書きしました。私は駐車場に出向いて行って、相手の車にメモを挟んできました。その晩はぐっすりと寝ました。結果はそれほど問題ではないことがわかつていたからです。何とか適切に対処できるだろうという思いが自分の中にありました。

翌朝、とても感じの良い男性が部屋の扉をノックしました。手にはメモを持っていました。この男性は車の傷は

心配するほどのことではないと手短に断わったうえで、むしろわざわざメモを置いてってくれた人がいたことに驚いて、うれしくなったと言つてくれました。

「本当にいいんですか。」そう言って、私はしかるべき対処をしたいと思っていることを伝えました。その男性は心配する必要はないと、もう一度私に念を押してから、去つて行きました。

もし私がメモを置いていかなかつたら、どうなつていったことでしょう。私は決してその男性に償いをすることはできなかつたでしょう。1カ月後、家族とテレビで同じような事故について見たとき、私は心の平安に加えてもうひとつの報いを受けたのです。

「私がニュージーランドしたことね。」私は夫にこう言いました。夫はすでにその出来事をよく知っていました。

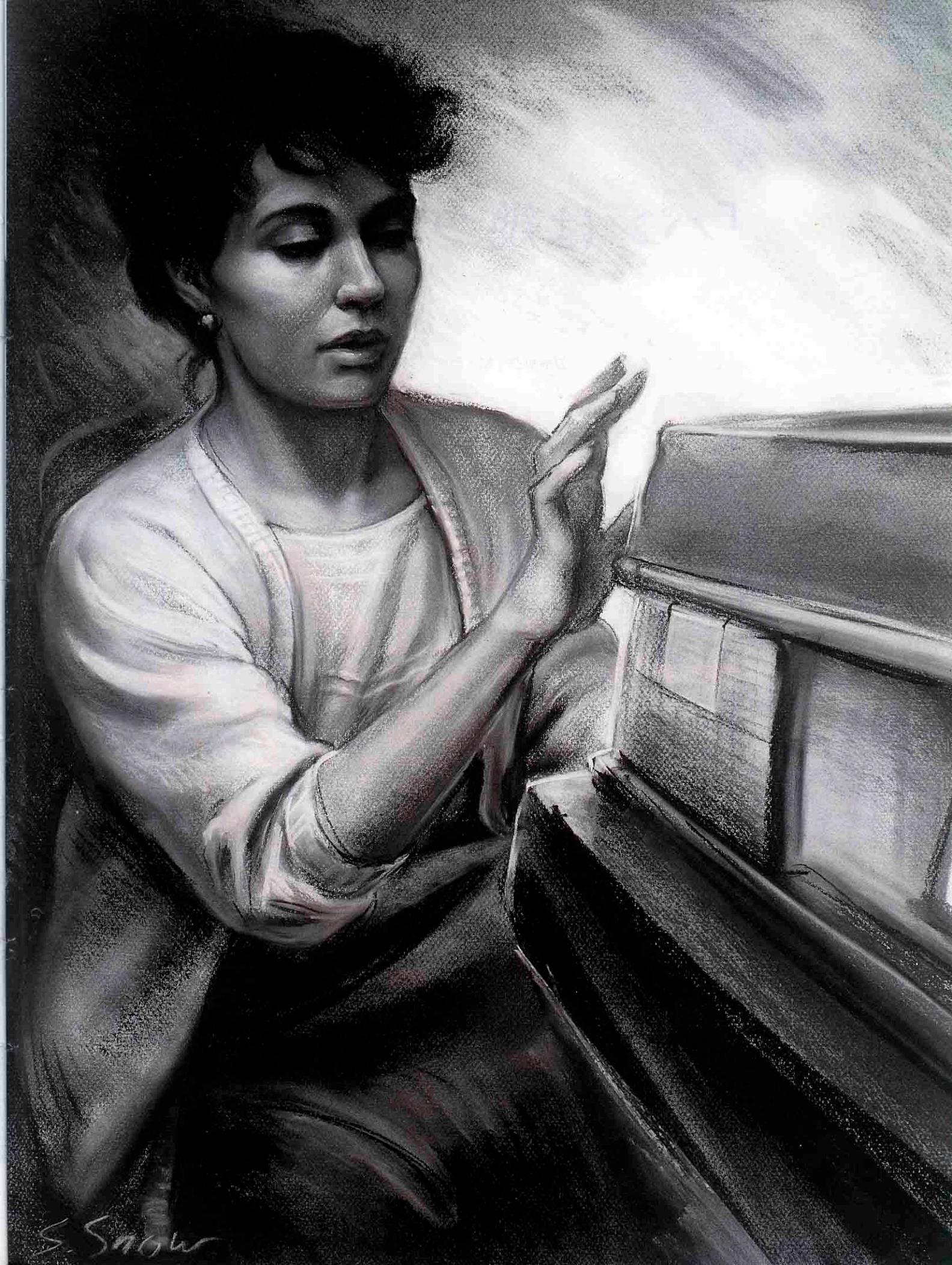
すると長女が私に何をしたのか尋ねてきました。そこで、その出来事は夜遅くに起きたこと、だれも見ていなかつたのでそのまま部屋に戻つてしまつたことを私は率直に説明しました。

すると娘は私の目をまっすぐに見て、こう言いました。「お母さん、私、お母さんがそんなことをする人じゃないって知つているわ。」

娘が私に寄せていた信頼の言葉を聞いて、私はニュージーランドで過ちを悔い改められたことに永遠に感謝することになりました。もしかするとそれが、来世ではなく現世で行なわなければならない悔い改めというものの特徴なのかもしれません。私は自分の過ちを速やかに、また、物理的にも容易に償うことができました。なぜなら相手と相手の車が目の前に存在していたので、私は自分が行なう必要のあることをただ相手に尋ねさえすればよかつたからです。私はそれを実行しました。

もし私が悔い改めを引き延ばしていたら、償いができないためにその過程はもっと時間がかかり、もっとむづかしいものになつていたでしょう。私は祈りと熟考を重ねて、別の道を取らなければならなかつたはずです。私は自分の過ちをすぐに悔い改めて、自分と自分の娘を落胆させずに済んだことに感謝しています。□

\*マリアン・E・フ林ト姉妹：アリゾナ州メサ西ステーキ部アルマ第5ワード部所属。



S. Snow

# 「パンは幾つあるか」

ジャック・M・ライアン

## 財政管理に関する主の教え

かつてイエスが言われた次の言葉を聞いて、最初は少し首をかしげる人もいるでしょう。「もしあなたがたが不正の富について忠実でなかったら、だれが眞の富を任せるだろうか。」(ルカ16:11)これはすなわち、この世の富を管理できない者に天の富を任せるわけにはいかないという意味です。

主は、「あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない」(ルカ16:13)と言っておられます、私たちが主に奉仕する中で与えられたものを賢く管理するかどうかを見るために、この世の物も与えられました。財政管理の方法については、聖典に記されている主のみ言葉や模範を通して主ご自身から学ぶのが一番適切だと思います。

### 1. 自分の所持金を知る

自分がいくら持っているかを常に知っていることは重要です。「少ししかありません」と言う人がいるでしょう。確かに、そのとおりかもしれません。しかし、パンと魚の奇跡を思い出してください。救い主は、5,000人に食物を与えなければなりませんでした。そこで主はまず、弟子に、「パンは幾つあるか」(マルコ6:38)と尋ねられました。もちろん、足りないことはご存じでしたが、それでも、パン5つと魚2匹とを数えさせたのです。私たちにとっても、たとえ足りないことはわかっていても、自分の所持金を正確に知るのは、状況を少しなりとも改善し、今持っているものを使って今後どうするかを考え

るためにも必要なことなのです。

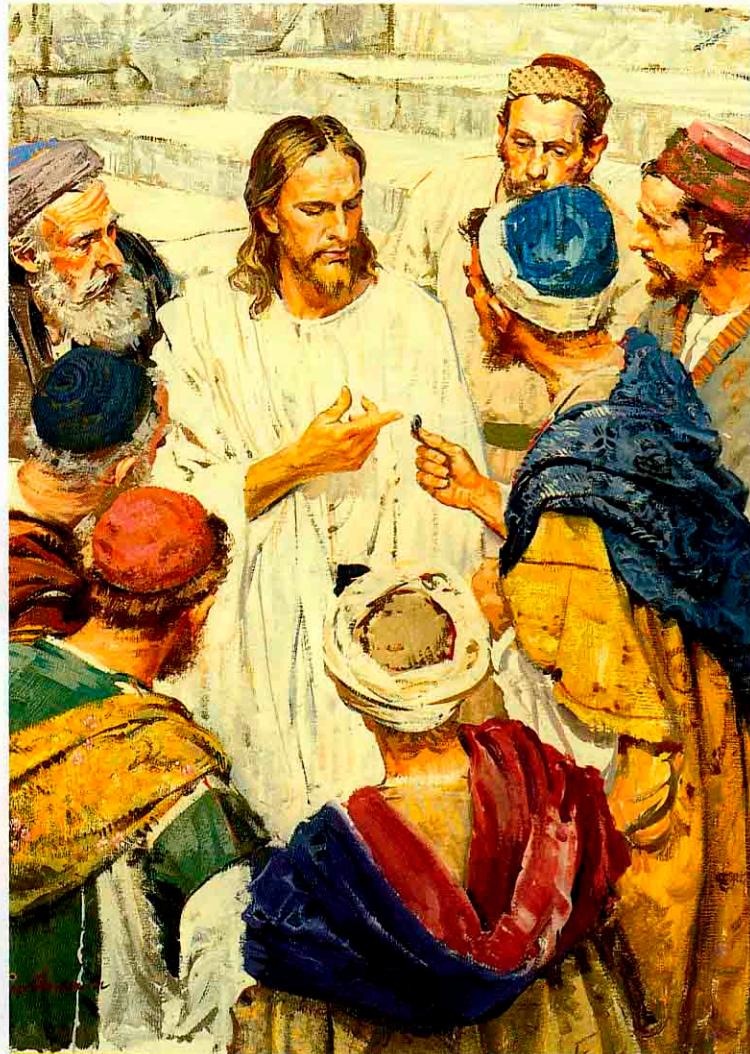
経済的に十分な恵みを与えられている場合でも、主は賢くやりくりすることを望んでおられます。群衆に食物を与えた後、イエスは弟子たちに、「少しでもまだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」(ヨハネ6:12)と言われました。マルコは、その残りを数えると、「十二のかごにいっぱいになった」(マルコ6:43。ヨハネ6:13参照)と記述しています。金額の多少にかかわらず、私たちは自分の資産が正確にどれほどあるかをきちんと記録しておく必要があります。

### 2. 負債の額を知る

負債のある人は、その金額を知っているでしょうか。「あまり多くてわかりません」と言う人がいるでしょう。確かにそうかもしれません。でも実際にどのくらいあるのでしょうか。正確な金額を知らなければ、どのようにして返済計画を立てられるでしょうか。救い主は食物を数えあげた後、群衆を正確に数えて、100人ずつ、あるいは50人ずつ列を作り青草の上に座らせました。手元にあった食物より人々の数の方がはるかに多いことは確かでしたが、実際にどのくらいの差があるのかを正確に知るために、このようにされたのでしょう。

救い主はこの原則について、かつて次のように入念に説明しておられます。「あなたがたのうちで、だれかが邸宅を建てようと思うなら、それを仕上げるのに足りるだけの金を持っているかどうかを見るため、まず、すわっ





てその費用を計算しないだろうか。

そうしないと、土台をすえただけで完成することができず、見ているみんなの人が、『あの人は建てかけたが、仕上げができなかった』と言ってあざ笑うようになろう。」(ルカ14:28-30)

負債の金額を正確に知っていると、少しなりとも負債を返済する力を得、たとえ持っている金額より借りている金額が多いにせよ、不思議と心が動搖しないものです。

負債を全額返すことができない場合は、どうしたらよいでしょうか。主はそのことについても次のように助言しておられます。「あなたを訴える者と一緒に道を行く時には、その途中で早く仲直りをしなさい。そうしないと、その訴える者はあなたを裁判官にわたし、裁判官は下役にわたし、そして、あなたは獄に入れられるであろう。」(マタイ5:25)

言い換れば、法律的な処置が執行される前に、お金を借りている人のところへ行って話し合いなさいということです。こちらの状況をよく説明するのです。もし、あなたが正直であり、きちんと返済計画を立て、必ず返済する意図があることがわかつてもらえば、多くの場合、支払い期限を延ばすなどの処置をとってもらえるでしょう。

### 3. 自分の持っているものを主に感謝する

また別の折にイエスは、4,000人に食物を与えられたことがあります。そのときイエスは、十分な食料がなかったにもかかわらず、与えられているものに対して感謝されました。(マタイ15:36参照)私たちは経済的な問題に心を悩ますあまり、ときどき恨みを抱いたり、感謝の気持ちを忘れたりすることがあります。しかし、謙遜にへりくだり、持っていないものについて心配するよりも、むしろ現在、与えられているものを神に感謝するなら、問題は改善されるでしょう。救い主は文字どおりみ恵みを数えあげ、人々は主のなさったことに驚いたのです。

### 4. 主に助けを求める

主は、必要としているものを求めるよう弟子たちに命じ、「すべて求める者は得」られると約束しておられます。靈の糧はもちろん大切ですが、靈的なものだけを求めなければならないと考える必要はないのです。天父は喜んで、「求めてくる者に良いものを下さ」るのです。(マタイ7:7-11)

イエスご自身も、天父に向かって助けを求められました。マルコは5,000人の群衆に食物を与える話の中で、イエスは「天を仰いでそれを祝福し、パンをさき」、群衆に分け与えられ、「みんなの者は食べて満腹した」(マルコ6:41-42)と記しています。

天父は何もしない人に何かを与えるとは約束しておられませんが、私たちが本当に必要としているものを正直に祈り求めるよう望んでおられます。もし、主に対する信仰を持ち、主に助けを求めるなら、私たちには不可能と思われる返済も可能になるような道を開いてくださることでしょう。

主は、人知ではとうてい計り知れない力を持っておら

れます。ペテロが宮の納入金を納めるよう言われたとき、イエスはこのように言されました。「海に行って、つり針をたれなさい。そして最初につれた魚をとて、その口をあけると、銀貨一枚が見つかるであろう。それをとり出して、わたしとあなたのために納めなさい。」(マタイ17：27)

この話からわることは、主はただ単に必要なお金を与えられた訳ではないということです。もちろん、主はそうされることもできたのですが、あえてそうはされませんでした。それは、負債を返済しようとする私たちの努力を祝福し、現在持っているお金により効果的に管理できるように助けようとされるからなのです。従順な人は主の導きにより、以前見落としていた方法や可能性に気づくことができるかもしれません。確かに、信仰を持って聖霊のささやきに耳を傾けるならば、主に導かれることでしょう。

救い主は、次のようにおっしゃっています。「あなたがたも、何を食べ、何を飲もうかと、あくせくするな、また気を使うな。これらのものは皆、この世の異邦人が切に求めているものである。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要であることを、ご存じである。ただ、御国を求めなさい。そうすれば、これらのものは添えて与えられるであろう。」(ルカ12：29—31)

## 5. お金を蓄える

将来のためにお金を蓄えることは、賢い財政管理の方法です。支出よりも収入の多い人には、これは簡単なことでしょう。しかし、そうでない人も、毎週あるいは毎月、ほんのわずかでも蓄える努力をしてください。そうすれば節約する習慣が身に付くようになるでしょう。それに、だんだん蓄えが増えてくれば、もっと蓄えようという気持ちが出てきます。

主は、たとえどんなに少なくても、私たちが持っているものを増やすように望んでおられます。タラントの話(マタイ25：14—30参照)で、ある僕には5タラント、別の者には2タラント、最後の者には1タラントが与えら

れました。5タラント渡された者は、それを賢く使って、5タラントをもうけ、2タラント渡された者も、同様に2タラントをもうけました。主人はふたりに言いました。「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわざかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。」(マタイ25：23)1タラント渡されて、それを殖やそうしなかった者だけが責められたのです。主人は、私の金を銀行に預けておけば、利子の分も一緒に返してもらえたのに、と言いました。(マタイ25：27参照)

イエスが教えてくださった教訓を実践すれば、もっと効果的に金銭を管理できるようになります。聖典の中にはこのような教訓がまだほかにも載っています。金銭、および私たちの生活の中で金銭が占めるべき位置については随所に言及されているのです。このようにして学んだことを実践するにつれ、苦しかった経済的な状況も好転し始めるでしょう。希望を失わずに、主が永遠の富を与えてくださる日を待ち望むならば、現在与えられた物を忠実に管理することに満足を覚えるでしょう。□

\*ジャック・M・ライアン兄弟はデゼレトブック社副編集長、ユタ州マグナ南ステーキ部レイクリッジ第12ワード部所属。

### 金銭に関する興味深い聖句

#### 財政管理について

ハガイ1：6；イテモテ5：8；モルモン經ヤコブ2：19；教義と聖約38：39—40；136：27

#### 貯蓄について

マタイ25：1—13；教義と聖約45：65；48：4

#### 負債について

詩篇37：21；箴言22：7；ローマ13：7—8；教義と聖約19：35；64：27；104：78；136：25

# 若人のための 奉仕のアイデア60

1. 所属ワード部から伝道に出ている若い宣教師や夫婦宣教師に手紙を書く。
2. 専任宣教師と一緒に伝道する。
3. 専任宣教師を食事に招待し、母親が食事を作るのを手伝う。
4. 特別な活動の後、成人指導者に感謝の気持ちを伝えるカードを送る。
- 5.若い男性、または若い女性の活動の後、クラス全員で後片付けをする。
6. 託児指導者の指示の下に、神殿訪問やホームメーリングの間、クラスで託児の手伝いをする。
7. 教会の建物の周囲の掃除を手伝うことを申し出る。
8. 12歳の青少年が初めて若い男性や若い女性の活動に参加するとき、一緒に座ったり行動したりして、歓迎の意を表わす。
9. 教会の行事に参加するとき、必

- 要ならば、ほかの青少年の送り迎えをする。
10. 年上の青少年に、それぞれ年下の青少年の中からだれかを選び、内緒でカードやクッキーなどを励ましの言葉と共に送ってもらう。
11. 学校に末日聖徒の青少年がいればその人に対して親切にするよう一層の努力をする。特に年下の兄弟姉妹には配慮が必要かもしれない。
12. 祖父母やその兄弟姉妹に手紙を書く。
13. 小さくなつて着られなくなつた服を探して、弟や妹、またはそのほかの必要な人にあげる。
14. 家庭の夕べを計画し準備する。
15. 家族のだれかに「ありがとうございます」とか「愛しています」というメッセージを書いたカードをそっと渡す。
16. お父さんやお母さんが日曜日に

- 履いていく靴を磨く。
17. 両親が神殿や教会の活動に行っている間、弟や妹の世話をする。
18. 年輩の教会員の生い立ちをテーマにとったり書き留めたりして記録に残す。
19. 大きな奉仕の計画をしている人がいれば、その計画が成功するように助ける。
20. 近所の人々のために、地震や洪水に備えるセミナーを計画準備する。
21. 病院に入院している子供たちのために彼らを主人公にした物語を書いて読んであげる。
22. ベビーシッターを頼む金銭的な余裕のない家族や、家にいて病人の世話をしなければならない家族のために、無料で子供の世話ををする。
23. 学校の授業についていくのがむずかしい子供たちの勉強を見てあげる。



PHOTOGRAPH BY GIG GREENWOOD

24. 自分の持っている技術をほかの人に教える。

25. 近所の子供を持つ母親が、2時間くらい休憩ができるように、子供たちを公園へ連れて行ったり、いろいろな活動を計画したりする。

26. 教会員が非常時に、子供の世話や家事などを依頼できる非常時対策委員会を組織する。

27. 子供を持つ夫婦が共に聖歌隊で歌ったり、練習に参加したりできるよう、子供たちの世話をする。

28. ほかの宗派の青少年のグループと協力して地域の清掃を行なう。

29. 初めて教会へ来た人に付き添って、同じクラスに出席し、歓迎の意を示す。

30. 「聖徒の道」を購読していないい家族に、既刊のものを見せてあげる。

31. 所属ワード部から伝道に出ている宣教師に、彼らの求道者に手紙を書いて、福音に対する気持ちを伝えてもよいかどうか尋ねる。

32. 家庭菜園で余った野菜や果物を、ワード部内で必要な人がいれば分けてあげる。

33. ワード部内の補助組織で必要な場合、いすを並べるのを助ける。

34. 家族の歴史や系図の調べ方を学ぶ。

35. 悩んでいる友達がいれば、短い励ましの手紙を送る。

36. 必要であればだれかのために特別な歌を作曲する。世界一の名曲を作る必要はない。大切なのは助けたいと思う心なのだから。

37. 詩を書くことが好きな人がいれ

ば、その人の書いた詩に曲をつけてプレゼントする。

38. からかわれたり、いじめられたりしている人がいたら助ける。

39. もしだれかの感情を害したら、自分が悪くなくても先に謝る。

40. だれかが謝ってきたら、喜んでそれを受け入れ、赦す。

41. もし、自分に自信のない人がいたら、その人の長所を書いた手紙を匿名で送る。

42. 自分の部屋をきれいにする。これは家族に対する大きな奉仕である。

43. 自分の兄弟と良い関係を築く。これも家族に対する大きな奉仕のひとつである。

44. 両親と仲良くする。これは両親にとってはもちろん、自分にとっても大いにプラスになる。

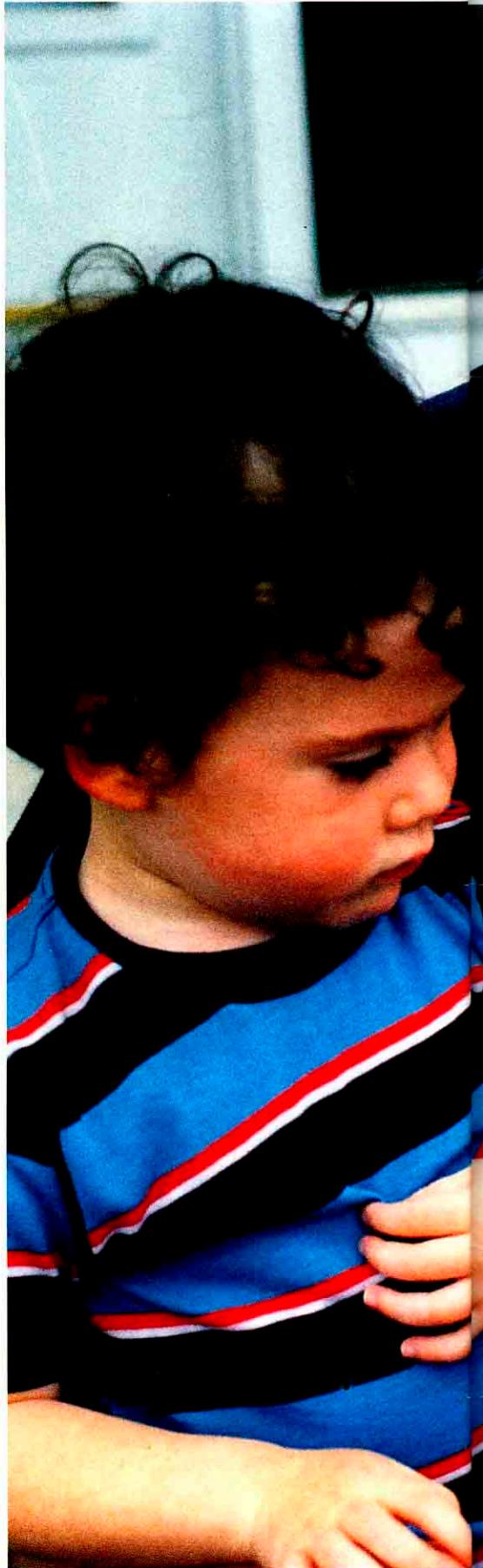
45. 両親を信頼して、自分の悩みを打ち明ける。これは両親のためにも、自分のためにもよいことである。

46. 自分自身を好きになる。これは自分のためにも、周りの人々のためにもよいことである。

47. もし、友達から自殺したいと打ち明けられ、秘密にするように約束させられても、躊躇せず友達の両親に伝える。このような場合は、約束を守ってはいけない例外的な場合である。

48. 両親に愛と感謝の気持ちを伝える。また、両親の教えに従って生活するように努力していると伝える。これは両親にとって何よりもうれしいことである。

49. ほかの人々に対する奉仕は、ほとんどみな自分の家族に対してもで





PHOTOGRAPHY BY DEANETTE GOATES SMITH

きるものである。家族も奉仕を受ける必要がある。

50. 学校や教会の教師から良い影響を受けて大きく成長したことがあるなら、そのことを早急に先生に伝える。先生は、あなたの役に立たなかったと思っているかもしれない。

51. ワード部活動委員会に協力し、芸術的な才能を教会行事の宣伝用ポスターや垂れ幕を作るために役立てる。

52. 断食献金を納めることにより、助けを必要としている人々を助ける。

53. 家庭のタペ用の視覚教材を作り、教会の図書室に備える。

54. 自分の住んでいる町に、奉仕活動のプログラムがあるか、またどのような分野でボランティアが必要か調べる。

55. 教会員でない友達にモルモン経を贈るとき、家事、庭仕事、子供の世話などの奉仕のクーポン券を添えて渡す。

56. 出産したばかりの母親がいたら、父親が病院へ行けるように、ほかの子供たちの世話ををする。

57. 母親が生まれて間もない赤ちゃんと一緒に過ごす時間が持てるように、ほかの子供たちの世話をしたり遊び相手になったりする。または、母親がほかの子供たちと一緒に過ごせるように、赤ちゃんを見てあげる。

58. ホームティーチャーのために感謝の気持ちを込めたカードを作る。

59. 体の不自由な人や自分で書けない人に代わって手紙を書く。

60. 奉仕を楽しむ。□



ILLUSTRATED BY STEVE MOORE

# 300本の 羊皮紙の巻き物

「死者よ、王インマニュエルに永遠讃美の歌を語り出だせ。  
インマニュエルこそ……われらをして死者をその囚屋より贖うを  
得しむることを定めたまえり。」(教義と聖約128:22)

マリオナ・ウォシュバーン

**ス**ペインのバルセロナで、私は教会員ではない夫の18世紀の先祖が集めた資料を整理して、ほぼ200人ほどの人名を入手しました。そのほとんどは私の母国語のカタロニア語で記された日記から得たものです。さらに別の情報源として、夫の家には系図を記した300本ほどの羊皮紙の巻き物があることも知っていました。みなラテン語で書かれた15世紀の手書きの巻き物です。

ラテン語の資料を調べられる時間は家庭の事情でごくわずかしかなく、しかも私には解読ができません。コピーをする資金的な余裕もなく、時間も限られていたため、儀式の執行を長い間待ち望んでいるはずの先祖たちに申し訳ないと、私はある友人に打ち明けました。

すると彼女は、神権の祝福を受けたらどうかと勧めてくれました。私は断食をして神権の祝福を受け、それによって靈的な力がわきあがるのを感じました。それでも目の前の膨大な仕事に気力をそがれて、しばらくは取り組むことができませんでした。

翻訳のために残された期間があと1週間だけになって、ようやく私はひざまずき、主の助けを祈り求めました。先祖がひとやから贖われるよう、みこころであれば私をみ手に使う器としたもうてください、と願いました。

そのときから、古文書に対する私の理解力は鮮明になりました。辞書なしで翻訳することさえできました。どの巻き物も解読しやすくなって、読む速度も次第に早くなっていました。必要な時間も不思議と取れるように

なり、深夜まで作業を続けてわずかな睡眠しか取らなくとも、疲れを感じませんでした。先祖がそばにいるように思われ、それによって私に必要な靈的な力も与えられました。

何世紀もの間に記録はネズミに食い荒らされてわからなくなってしまった箇所がありましたが、それでもほとんどの場合、文書のどこかに失われた情報を見つけることができました。記録し忘れたことがあると、もう一度読み直す必要を感じて巻き物を広げるたびに、必要な情報がすぐに見つかるのでした。翻訳がむずかしくなったときには、心から助けを求めるときには必ず答えが得られました。

4日間を費やして翻訳を終えたときには、帰国の直前になっていました。集めた情報は1212年までさかのぼります。天使を見たわけでも示現を受けたわけでもありませんが、私は日々、奇跡に接していました。ちょうど東から日が昇るように、きわめて理にかなった奇跡でした。

天父の助けがあったことに、私はこれからも絶えず感謝し続けるでしょう。末日聖徒イエス・キリスト教会にはエライジャのみたまがあるという証は、以前にも増して強くなりました。それによって私たちは死者をひとやから贖うことができるのです。そのみたまを通じて「囚人は釈かる」(教義と聖約128:22)ということを、私は知っています。□

\*マリオナ・ウォシュバーン姉妹：ワシントン州マウントバーノンステーキ部マウントバーノン第2ワード部所属。



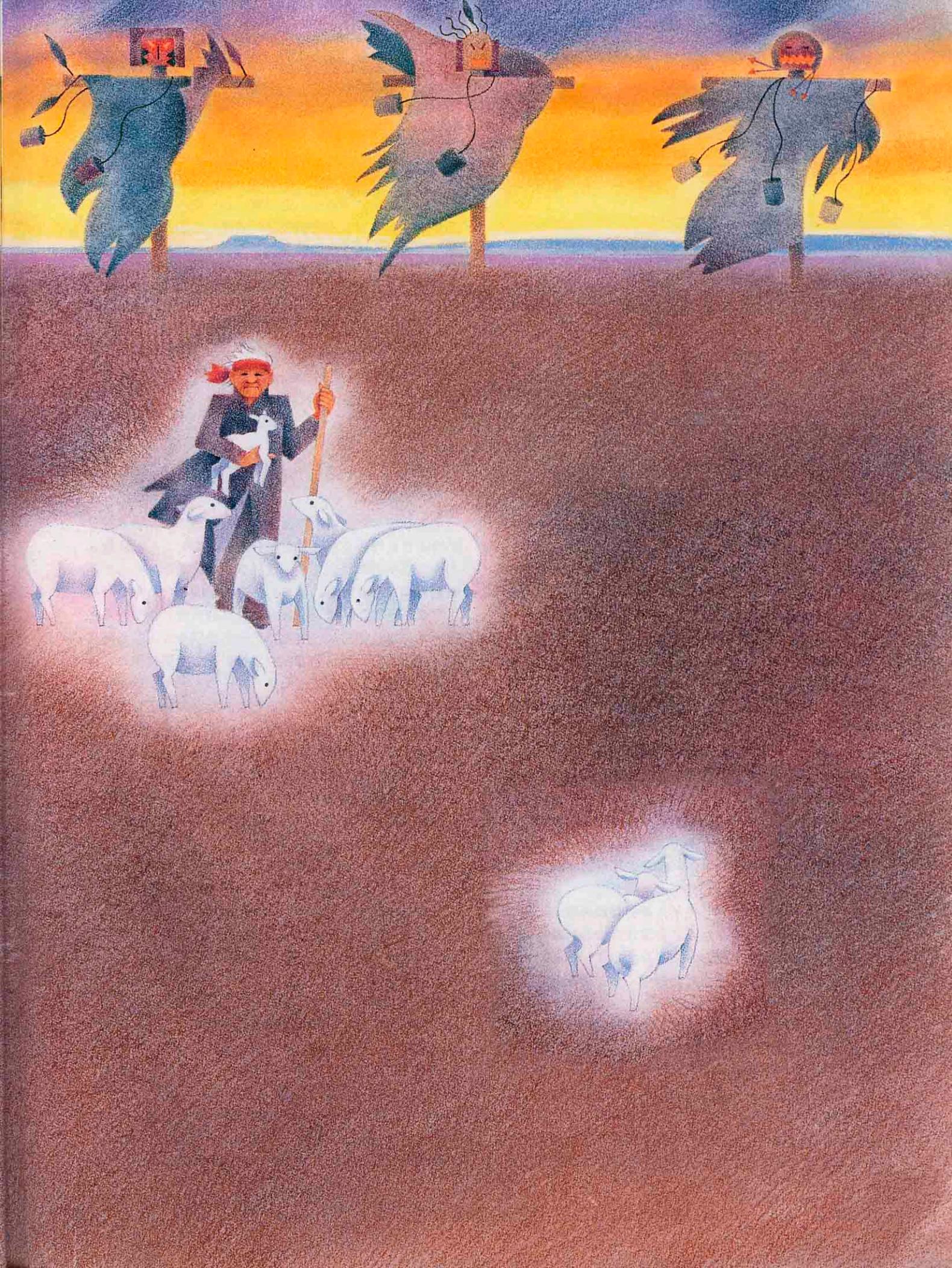
# 1匹の羊をも

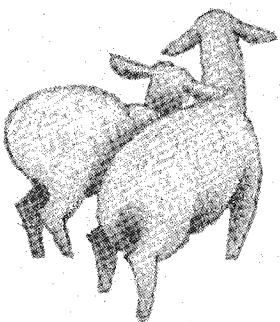
シンシア・パネル

夕闇の迫るころ、私たちは山の頂上にある平原へ向かって車を走らせていました。そこには年老いた羊飼いが住んでいたのです。夕暮れの薄明かりの中で、ぼろきれをまとった6人の人影がオレンジ色に染まった空を背景に黒々と浮かび上がって見えました。それは恐ろしい顔をした、かかしのようでした。引き裂かれた黒い衣が風になびき、つるしてあるブリキの缶が鈍い音を立てていました。たそがれの中でそれは何とも不気味で奇妙な光景でした。

気味の悪いその人影に少し怖くなつた私は同僚に言いました。「これ以上遠くまで行つていいものかしら。こんな気味の悪い物を作つた人はだれであろうと、たぶん私たちの言うことを受け入れないと思うわ。」 トラックをUターンさせ、ナバホ・インディアンの特別保留地に指定された広い空き地を引き返しました。アリゾナ州ホルブルック伝道部の宣教師として働いていた私たちはすべての人々と福音を分ち合いたいと思っていましたが、たぶんこれらの人間の形をした奇妙な物を作つた人だけは別だらうと思ったのです。

ILLUSTRATED BY DILEEN MARSH





ところが次の週、その羊飼いを訪ねるようにとの促しを感じました。そこで今度は昼間トラックで向かうと、羊飼いが、自分で作ったかかしのようにじっと動かずに老木のそばに立っているのに出会いました。手には木のつえを持ち、黒の長いコートを着ていました。彼は、私たちがトラックを降りて近づいてくるのを黙って見ていました。髪は白く、目は穏やかで、しわだらけの茶色い顔は無表情でした。

同僚は宣教師になってからまだ日が浅く、ナバホ語を話せませんでした。私もあまり上手ではありませんでしたが、「こんにちは。あなたはどなたですか。私たちは宣教師です」というような意味の言葉をナバホ語で言って自己紹介しました。

羊飼いは私を見ました。私がナバホ語でいいさつできることに感心した様子ですが、英語でこのように答えました。「私はバプテストです。あなた方の話は聞きません。私はバプテストです。」

言葉はぶっきらぼうでしたが、その言葉の後に何か別の気持ちが感じられました。言葉には表われなくとも温かい歓迎の気持ちが伝わってきたのです。論議はせずにいろいろ話していくうちに、程なくしてまた会いに来ることを約束しました。

その後、数カ月間、たびたびこの老羊飼いを訪ねました。彼は羊を遠くまで連れて行くので、私たちは車で丘の頂上まで行き、遠くを見渡して彼を探さなくてはならないこともあります。この訪問はいつも私たちにとって貴重なものでした。

彼の小屋は狭すぎて、私たち3人が座って話をする場所はありませんでした。初めのうちトラックの荷台に座

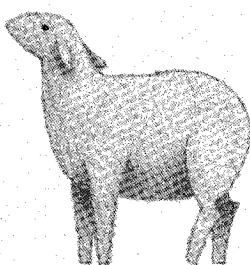
って話しました。あまりに寒い日は、 トラックの運転席に身を寄せ合うようにして話したものでした。私はほんの少ししかナバホ語を知らないし、彼の英語も私のナバホ語と同じようなものだったので、訪問はいつも長びいてしまいました。私たちはお互いに教え合いました。私が1本の木を指差し、英語でその名を言うと、彼も同じ木を指差し、ナバホ語で言いました。お互いに新しく覚えた単語を繰り返して言いました。少しずつ私はナバホ語を、彼は英語を覚え、こうしてお互いに意思を伝えられるようになったのです。

徐々に彼のことがわかつてきました。彼の名は、ピーター・ワレーで、その名は、第二次世界大戦中、アメリカ陸軍に従軍したときに与えられたものでした。何回か訪問した後、私たちは福音を教え始めました。話していると、とても強いみたまを感じました。私のナバホ語はあまり上手ではありませんでしたが、私の知らないはずのナバホ語の単語を使うように、何度もみたまのさやきを受けました。言いたいことをはっきりと伝えることはできませんでしたが、ピーターは私の言っていることが真実であるとわかったようでした。

ピーターは大変伝統を重んじるナバホで、いろいろなナバホのしきたりを教えてくれました。私はあまりしつこく聞こうとはしませんでした。なぜなら、それはナバホの社会では行儀の悪いことだと考えられていたからです。私は質問することをやめました。すると、彼は気の向くままに自分の生活について話してくれました。

ピーターは、私たちを川など、彼の好きな場所へ連れて行ってくれました。キツネやコヨーテが住んでいた穴に案内してくれたり、羊の群れを追い集める方法を教え

羊を愛するピーターは、寒い夜、子羊たちを自分の小屋の中へ入れるほど、温かい心の持ち主でした。どの羊にもそれぞれ名前を付け、それぞれの癖をよく知っていました。



てくれたりしました。また、私たちの最初の訪問を中断させた、あの背の高い黒い衣をまとった人形をどうやって作ったか教えてくれました。あれは、姉妹宣教師を怖がらせるために作ったのではなく、羊の群れに危害を加えるコヨーテを追い払うために作ったものだったのです。

羊をこよなく愛していたピーターは毎日、最良の牧草を求めて何キロも歩きました。寒い夜は、子羊たちを自分の小屋の中へ入れるほど、温かい心の持ち主でした。

彼は自分の羊をよく知っていました。どの羊にもそれぞれ名前を付け、それぞれの癖をよく知っていました。ある日、私たちはピーターと羊の群れを探していると、1匹の羊が群れから離れているのを見かけました。

群れを探し当てるとき、私は言いました。「ピーター、羊が1匹迷子になっているわよ。丘の向こう側で見かけただけど。」

彼は落ち着き払って言いました。「ああ、知ってるよ。それはボックスだ。年寄りですね。歯がないんだ。大丈夫さ。」私は驚きました。彼はその1匹の羊のことを、見えない所にいてもちゃんとわかっていたのです。ピーターは驚いている私を見てにっこり笑いました。彼もボックスと同じように歯がありませんでした。

ピーターが私のことを「のっぽの白い友達」と呼び始めたとき、彼から本当の信頼を得たのがわかりました。名前の代わりに「友達」と呼ばれることは、ナバホにとって非常に光榮なことだからです。「のっぽの白い」というのは背が高く、髪が明るい金髪であるためです。

あるとき、私たちは彼のためにランチョンマットを作りました。それは祈りの4段階を書いた1枚の紙を、透明のプラスチックで覆ったものです。彼はそれを自分の

小さなテーブルの上に置きました。その小さなランチョンマットがとても気に入った様子でしたが、その理由は祈りが大好きなためではないかと思います。羊の番をしている間、祈る時間がたくさんあったのです。

私が別の地区に転任になるまでの7カ月間、私たちはピーターに教えました。その後何人かのナバホの宣教師がナバホ語で教えました。彼はその教えを受け入れ、教会に入りました。私は大切な友達が福音を受け入れるための扉を開ける手助けができたことを誇りに思っています。

ピーターは、羊の番をする人がほかにいないので、あまりしばしば教会へ行くことはできませんでした。教会から90キロも離れた所に住んでおり、トラックもありませんでした。そんなに遠くまで歩いていくことはできなかつたし、彼を送り迎えするため、90キロの道を、2度も往復できる人はいませんでした。でもピーターは正しい生活を送っている善良な人なので、私は彼についてあまり心配はしませんでした。年老いたボックスがどこにいるのかをピーターが知っているように、確かに天父は彼の居所をご存じだからです。たとえ遠い山の頂上にひとりきりでいようと、彼は主の群れの中にいるのです。

ピーターは、私にとっては教師です。ナバホに関する私の知識のほとんどは、彼が教えてくれたものです。羊やコヨーテ、忍耐、沈黙、不毛地帯で牧草を見つける方法について教えてくれました。さらには良き羊飼いのこと教えてくれました。良き羊飼いはそれぞれの羊を愛し、群れから離れ迷子になったかのように思われる歯のない年老いた羊のことさえよく知っているのです。□

# 人生を正しく築く

救い主に従うことにより、私たち一人一人が確固たる基盤の上に自分の人生を築かなければなりません。



ある所にひとりの若い建築家がいました。彼はちょうど自分で独立して仕事を始めようとしていました。そんな彼のところに、父の友人で非常に金持ちの人が来て、言いました。「それでは手始めに、ぼくの家を一軒建ててくれないか。ここにその設計図がある。お金ならいくらでも出す。そこで最高の材料を使い、完璧なものを作ってもらいたい。費用はいくらかかってもよい。必要なだけ請求書を私のところに回してもらいたい。」

この若い建築家はこの信じ難いような条件を知り、この際ひともうけしてやろうと考えました。最高の技術者を雇い、最良の材料を仕入れる代わりに、いろいろな箇所をごまかしました。

最後に、使い古しのくぎを薄っぺらな壁に打ち終わると、この青年は家の鍵と、請求書を持って行きました。するとその紳士は即座に小切手を切り、それから家の鍵も建築家に渡して明るくこう言いました。

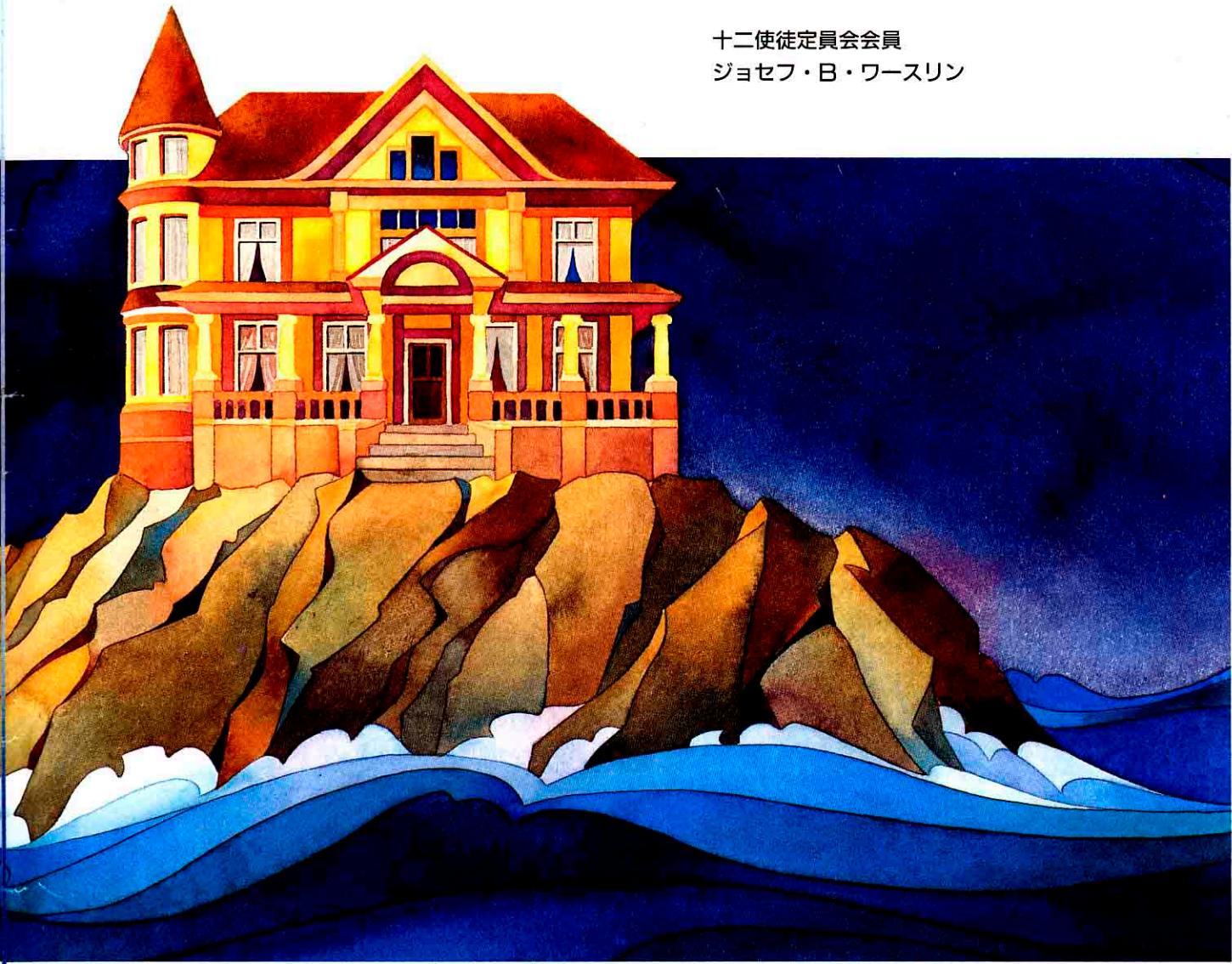
「君が建てたこの家はぼくからのプレゼントだ。この家で幸せに暮らすように。」

この話の中で、若い建築家は不正直な思いや行ないの結果がどうなるか深く考えませんでした。もし考えていたとしたら、かつてイエスが教えられた次のことがもっとよく理解できたはずです。

「それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることははない。岩を土台としているからである。また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができよう。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう。そしてその倒れ方はひどいのである。」(マタイ7:24-27)

若人の皆さん、皆さんにはそれぞれ立派な人生を築く機会を与えられています。皆さんのがどのような人生を築くかは、皆さん自身にかかっていると言っても過言ではありません。それでは、どうやったら人生を正しく築けるかについて、ひとつの提案をさせていただきたいと思い

十二使徒定員会会員  
ジョセフ・B・ワースリン



ILLUSTRATED BY RON PETERSON

ます。

幸福な人生を築く秘けつは、キリストとキリストの教えに基づいた人生を送ることです。すなわち、「わたしのこれらの言葉を聞いて行う」ことなのです。

もし私たちが福音の原則に従って生活するならば、救い主の次の言葉を実現することができます。「あなたがたは、世の光である。」(マタイ5：14)この光を持つことによって、私たちは自分の生き方と行ないを通して人々の中で光を放ち、天にいます私たちの父をあがめるように人々に影響を与えることができるのです。

イエスは、すべての人がイエスを知るよう望んでおられます。なぜなら、イエスを知ることにより人生を変える力が得られ、言葉では言い尽くせない喜びが私たちの人生にもたらされるからです。しかし、福音の及ぼす影響力はただひとりの人の上にとどまるものではありません。周囲の人々の生活からやみを払いのける光となるのです。自分ひとりだけ救われる者はだれもいないのです。それは、ちょうど自分のためだけに光るランプがないの

と同じです。

教義と聖約39章で、主は、近代の改宗者ゼームス・コーヴィルにこう告げられました。もし福音を心から受け入れ実践するならば、「すべての事を示しました王国の平和なることを教うるかの『慰め主』」を得るであろう(教義と聖約39：6)と。主はさらに約束されました。「その時汝にその権能留まらん。<sup>なんじ</sup>而して汝は大いなる信仰を与えられ、われは汝と共にありて先立ち行くべし。」(教義と聖約39：12)

これと同じことが忠実な人すべてに約束されています。もし私たちが、人と主に仕えることに基を置いて自分の人生を築くならば、最も優れた建築家、すなわち主の助けを受けると約束されています。最高の建築家は、人生を完全なものにするために必要なことをすべて、私たちよりもはるかによくご存じなのです。

別の機会にイエスはこのように言われました。「わたしは戸の外に立って、たたいている。」(黙示3：20)ただし、私たちが戸を開けて主を生活に招き入れないならば、

主はお入りになることができません。救い主を受け入れ、みこころを行なって初めて、私たちはこれからも正しい行ないをしたいという望みを持ち続けることができるのです。

福音の第一の原則の中で欠くことのできない部分は、「望みの原則」です。すなわち、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして」(マタイ22:37)神と人とを愛することを望む心です。私たちは各々、神のみこころに添った生活をし、靈性を高めてイエスを生活の中心に置かなくてはなりません。そして「神の栄光をまごころもて仰ぎみて」(教義と聖約4:5)毎日の生活を送らなければならぬのです。

私たちの宗教において、また私たちのすばらしい教会においては、年齢の差が不一致を引き起こすことはありません。むしろ永遠の原則が私たちを結びついているのです。これから人生を築こうとしている若い皆さんも、私たちのようにすでに終焉に近づいている者と同じように、イエス・キリストとその福音に対する信仰によって導かれることでしょう。

聖典に記されているように、キリストは、これらの原則を大変感動的な言葉で要約されています。「ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、『……永遠の生命を得るためにには、どんなよいことをしたらいいでしょうか。』」(マタイ19:16)

このような問い合わせの答えは、どんな人でも知りたいと思うでしょう。また、その答えを知るために自分持っているものを何でも差し出そうとするでしょう。とりわけ主ご自身から答えをいただける場合にはなおさらです。

主はこのように答えられました。「もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい。」(マタイ19:17)  
「もし命に入りたいと思うなら」という感動的な言葉に注目してください。命に入る、まったくそのとおりです。それこそ、私たちが皆、真に求めているものではないでしょうか。本当に、このほかに求めるものがあるでしょうか。

「いましめを守る」とはどういうことかと尋ねられ、イエスはこう言われました。「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。」さらに明確ですばらしい勧告が続きます。「父と母を敬え。……自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ。」(マタイ19:18-19)

これ以上に光栄に満ちた人生計画があるでしょうか。これらの戒めはみなすべて、惡に対して雄々しい戦いを挑み、難攻不落の要塞を築く力を与えてくれます。また、時間を最も有効に最も価値ある方法で使うことを教えてくれ、高潔さや道徳的規範を守り、模範を示すのに役立ちます。これこそ末日聖徒が築くことのできる人生なのです。

ジョセフ・スミスの時代に、教員は家を造るに当たって、どれくらい長く住める家を建てるべきか迷いました。それまでにあちらこちらに転居を重ねてきたからです。しかし、予言者は会員たちに命じました。「永遠にここにとどまるつもりで建てなさい。」

教会の歴史を注意深く調べると、私たちは皆偉大な教訓を学ぶことができます。私たちの教会が発展してきたのは、神を信じる私たちの信仰と、強くて献身的な指導者たちが靈感を受けて私たちを導いてくれたおかげと言えましょう。指導者たちは決して安易な近道を選ばず、常にイエスとその神聖な教えを生活の中心に据えてきました。

もし、私たちが救い主に導かれ、また救い主のために人生を築くならば、最高の材料を使い、最大限の努力を惜しまぬことでしょう。怠けずに勉強し、訓練を受け、勤勉、従順であるはずです。設計図どおりに建てようとなかったり、すばらしい機会を与えてくれた恩人を欺いたりすることなどは考えもしないでしょう。崇高で堅実な、自分が受けた信頼に値するものを建てたいと思うに違いありません。

そのような人生を築くときに、私たちは自分ばかりではなくほかの人をも祝福することになるのです。そして、完成の折には、立派な建物を目にすることでしょう。□

「アロンを聖別するモーセ」ハリー・アンダーソン画  
主はエジプトを出たイスラエルの民に、移動のできる神殿として幕屋を作るよう命じられた。完成に際し、モーセはアロンと4人の息子たちを神殿の儀式を執行する者として主に捧げた。  
そして「注ぎ油をアロンの頭に注ぎ、彼に油を注いでこれを聖別した。」(レビ8：1—12)

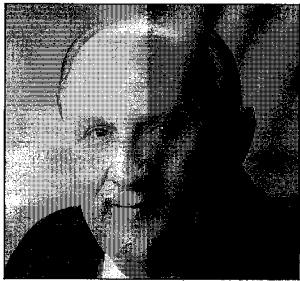




た とえ特殊な障害があっても、北アイ  
ルランドに住むファーガソン家族に  
とって心の交流を阻む問題はありません。  
本文「心の耳で聞きなさい」 p. 14参照

# 天の祝福をもたらす犠牲

アジア地域会長会会長  
ダグラス・H・スミス



**最**近、次のようなある若い夫婦の話を聞きました。この夫婦は夫が学業を終えて就職の準備が整うまで、何年間も家財道具をほとんど持たずに過ごしました。ふたりの目標を達成し、夫婦それぞれの就職先も決まって相応の収入が得られるようになり、さて、ふたりは自分たちの必要や望みについて話し合うことにしました。現在抱えている計画や将来の目標について話し合ったのです。そして、このままつましい生活を続けていくと決心しました。妻はこう語りました。「ベッドだってどうしても必要というわけではありません。床の上で寝るのも気持ちの良いものです。私たちがしなければならない一番大切なことは、主のために犠牲を払う、ということを学ぶことです。今貯蓄をしておけば、夫婦で伝道に出てアジアにいる大勢の神の子供たちに福音を伝える経済的な余裕を持つようになるでしょう。」

福音を宣べ伝えるという主の戒めに従おうと決心しているこの夫婦の考え方、私は感動しました。ふたりが大切な犠牲の原則をよく理解していることに胸を打たれたのです。私は、犠牲を払って誓約を守る人々に与えられた主の約束を思い起しました。「主なるわれの命ぜんとするあらゆる犠牲を捧げ……る者たちはわれの嘉納するところなり。」(教義と聖約97:8)

あらゆることにおいて試され、試練を受けることになった犠牲の律法(モ

ーセ5:1—8参照)は、アダムとイヴに授けられただけではなく、私たちにも与えられています。私たちは皆、自分の都合からではなく天父に対する義務の観点から物事を考えるようになります。スペンサー・W・キンボール大管長は次のように述べています。「教員として私たちは犠牲をこれまで以上に重視すべき時が来たのではないかと思う。」そして、イギリスに伝道に出たブリガム・ヤングヒーバー・C・キンボールの話を紹介しています。このときふたりは共に貧困と病床の中にありながら伝道の召しを受け入れたのでした。出発のその日、ブリガム・ヤングの病は重く、床に伏したまま起き上がることができませんでした。ヒーバー・C・キンボールがやって来てブリガム・ヤングを起こそうとしましたが、彼自身力が弱っていました。そこで通りの向こうの兄弟を呼んでこう言ったといいます。「さあここへ来て、ブリガム兄弟を起こすのを手伝ってくれ。」こうして翌日、ふたりは伝道に出て行つたのです。(「予言者の視点」p.72)

私たちは、末日聖徒イエス・キリスト教会がたどった160年間の道程の中で先達たちが払った偉大な犠牲について深く考え、教会の靈感されたプログラムを擁護し、それに従うという責任を受け入れる必要があるのです。

教員として先祖から受け継いできただぐいのない遺産について、また私たちが、勧告に従って主に犠牲を捧げるなら後世の人々に残し得る遺産について、よく考えてみてください。

現在自分たちに与えられている祝福を享受し、他人の欠点をあげつらったり人の持ち物をうらやんで不平をこぼしたりしない態度を学ぶのは大切なことです。教会の多くの夫婦宣教師たちは狭い住居に住んでいますが、もし別

の道を取っていたらもっと広々とした家屋に住んでいたでしょう。しかし、彼らは世俗的な資産の中にではなく、人々への奉仕の中に真の幸福を見いだし、主から与えられる永遠の祝福に目を向けているのです。

もし私たちの目や心、望みが、天父とその愛子のみ業の上に向けられていれば、物質主義的な気持ちは私たちの中から薄れていくでしょう。その代わりに、美しく朽ちることのない報いを伴った永遠の命が姿を現わしてきます。

夢を実現し、自らの内に秘められた力を發揮し、私たちに従う人々の光となるには、数多くの犠牲を払わなければなりません。

イエス・キリストは最も偉大な犠牲を捧げて、私たちに模範を示されました。「イエスはますます知恵が加わり、背だけも伸び、そして神と人から愛された。」(ルカ2:52)神の子供たちのために最高の犠牲を払うには、多くの知識と理解力と共に、体力を身につけ、天父に近い生活を送り、人々を知り愛する必要があったのです。

主の犠牲によって私も皆さんも、天の祝福を受けられるようになりました。ポール・H・ダン長老はかつて次のように語りました。「救いの計画全体に照らしてキリストとその犠牲について考えると、救い主に対する愛と感謝の気持ちは一層深いものになります。そして、さらに力強く清い思いを抱くようになります。」

世の中に出で行って福音を宣べ伝えるという犠牲は、イエス・キリストが払われた無私の犠牲には比べることもできませんが、福音を宣べ伝えるという神の招きに応じることは、人類家族にゆだねられた最大の務めのひとつなのです。しかもそれは、私たちが今は想像することもできないような方法で天の祝福をもたらしてくれるでしょう。私たちが神に近づくためには日々どのような行動をとり、決断し、計画を立てたらよいかを考えるときに、必ず、この大いなる犠牲の律法を考慮に入れることができるよう願っています。そうするなら、人生の泉から勢いよくわき出る水の流れのように、私たちはさらに主に近づくことができるでしょう。

# フィリピン地震の中で見た奇跡

7月16日、フィリピンを襲った地震は、ルソン島北部の住民にとって大惨事となった。しかし地震以来随所で見られる奇跡と祝福は、天父からの子らに対する愛の証と言えよう。

フィリピン・バギオ伝道部のロバート・D・スコット伝道部長は現地の状況を、チャーチニュースとの電話インタビューにおいて次のように説明した。

「地震に襲われて以来、数えきれないほど多くの奇跡が起きています。主が私たちを見守ってくださるということが身にしみてわかりました。……地元の指導者たちも適切に対処しています。教会の敷地は教員であるなしを問わず住民の避難所に使われています。教会堂の外では避難してきた人たちが当座をしのぐためにテントを張っています。自分たちの家にいるよりも教会の敷地内にいる方が安全に思うようです。」

救助隊は引き続き崩れ落ちた建物や土砂の中から遺体の発見に努めているが、教員の死者は5人にとどまっている。

7月16日に起きたマグニチュード7.7の地震は、半径160キロの範囲に影響を及ぼした。中でも被害が最も大きかったバギオ、ダグパン、アグーはこの伝道部の管轄下にある。

フィリピン・ミクロネシア地域会長である七十人第二定員会会員ジョージ・I・キャノン長老は、地震が起きて以来2週間の間に見られた人々の献身的な奉仕と英雄的な行為にまつわる話をいくつか語った。

「ある監督が言うには、すべての集会の出席者がかなり増えているそうです。それは多くの人が教会に戻ってきたからです。ある集会で、賛美歌『恐れず来たれ、聖徒』を歌い、会衆が声をそろえて『すべてはよし』と歌う姿

には、実に力強い精神があふれていました。」

地震当時バギオ市内にいたソルトレクシティ出身のバギオ伝道部夫婦宣教師、ロバート・ソレンセン長老とカミル姉妹は、バギオステーキ部のフランク・パラクサ副ステーキ部長が経験した奇跡について、次のように語った。

パラクサ副ステーキ部長は、家族を捜すために約20軒の倒れた木造2階建て住宅周辺を捜索した。自分の祖母を見つけることができるようになると祈り、重い物の下敷きになっていた祖母を救い出す力を得た彼は、靈感により息子と孫娘も探し当てた。また2時間もがれきの下に埋もれていた会員を救い出した。

地域の協力もあり、バギオステーキ部センターでは無料の食事が用意された。扶助協会の姉妹たちは、150人分のスープが作れるなるべく22個用意し、教員であるなしを問わず地震のため避難している人々にスープを配った。

島はちょうどモンスーン期に入り、雨の降る寒い日が続いている。人々は風雨にさらされ、体調を崩しているとフィリピン・ミクロネシア地域の地域監督、テリー・スパリーノ兄弟は述べた。そこで、フィリピン・マニラ伝道部は医師や看護婦の資格を持つ宣教師数名で構成された医療チームを派遣し、約1,000人に風邪やインフルエンザの注射を行なった。また、下痢、腸チフス、肝炎の薬も供与された。

教会役員は最も大きな被害に遭ったムノスのステーキ部センターの損害額を算定中であるが、おそらく修復に



(上) アグーの教会堂前で会員たちを励ますジョージ・I・キャノン長老。

(下) ルソン島北部を襲った地震によりドミノ倒しのように倒れたバギオパークホテル前の建物。

75,000ドル(約1千万円)以上はかかるであろう、とスパリーノ兄弟は述べた。

アリングイにある2階建ての教会堂は余震の影響のため閉鎖されたが、何ヵ月も使用不可能な建物はムノスのステーキ部センターだけである。ほかに約15の教会堂が軽い被害に遭ったものの、1週間以内には会員が集まるようになるであろう、とスパリーノ兄弟は述べた。

民間防衛担当軍支局の発表によると、地震による死者は7月30日現在1,641人である。(「チャーチニュース」1990年8月4日, p.3)

# ソビエトのテレビカメラ、 教会を取材

人口約1億8千万人のソビエト国民は、9月にソビエト国内で人気のあるテレビ解説者から末日聖徒イエス・キリスト教会について聞くことになった。

ソ連の中央テレビ局解説者、ウラジミル・ムクセフ氏は、カメラマン兼技術担当者のウラジミル・ブレジネフと共に7月30日、31日の両日、ソルトレークシティに滞在し、末日聖徒とその慣習について取材した。

両氏は十二使徒評議員のラッセル・M・ネルソン長老にインタビューした後、ソルトレークシティ・モニュメントパーク第20ワード部の日曜日の集会を訪問し、ロバート・ペネット監督にもインタビューし、テンブルスクウェアで行なわれたある青年のバプテス



ソ連のテレビ解説者ウラジミル・ムクセフ氏(中央)、ドミトリ・ズボフ氏(左)と通訳のアレクサンドル・カペルソン氏と共にテンブルスクウェアを訪問。

マ会を取材した。また、タバナクル合唱団のテレビ放送の一部を録画し、路上を行き交う人々に末日聖徒の印象を尋ねた。

取材の結果は、毎週放送されるムクセフ氏担当のテレビ番組「ウスギラド」の中で5、6分のレポートにまとめられる。ウスギラドとはロシア語で「見解」あるいは「概説」という意味である。

通訳のアレクサンドル・カペルソン氏によると、「ウスギラド」はソビエトで最も人気の高い番組のひとつで、ムクセフ氏は番組を司会する4人のジャーナリストのうち最も人気があるという。

ムクセフ氏の訪問は、ソ連の連邦青少年センターの副所長ドミトリ・ズボフ氏の紹介により実現した。国際文化交流機関「アップ・ウィズ・ピープル」の会員であるズボフ氏は、「アップ・ウィズ・ピープル」の25周年記念特集記事のため、コロラド州デンバーで開かれたジャーナリストの会合でムクセフ氏と出会った。以前、ユタ州を訪問したことがあるズボフ氏は、ムクセフ氏にソルトレークシティを訪問し、教会と会員について取材してみないか、と提案した。

ソ連からの訪問者を接待したのは、ユタ州に本拠地を置く米ソ貿易コンサルタント会社、サトコ・インターナショナル社である。同社の社長であり教会員であるスチーブン・H・スマート兄弟によると、ズボフ氏は常々彼の末日聖徒としての生活ぶりに关心を持ち、それが今回の訪問に及んだ。

通訳を通してムクセフ氏はこう語った。「今日ソビエト社会の閉鎖性が打破され、ソ連の宗教は新しく生まれ変わりつつあります。ソ連には様々な多くの宗教団体がありますが、その中に

は末日聖徒イエス・キリスト教会も含まれます。ソビエトの人々は、合衆国でよく知られている宗教に関心を寄せるに違いありません。」

ムクセフ氏はユタ州住民に対する第一印象を、「幸福な人々」「真に宗教の自由を持っている人々」と述べ、ソ連では宗教の自由は始まったばかりである、と付け加えた。また、末日聖徒の信仰は若い人々を引き付けているように見受けられ、それゆえに将来性のある宗教だと述べた。

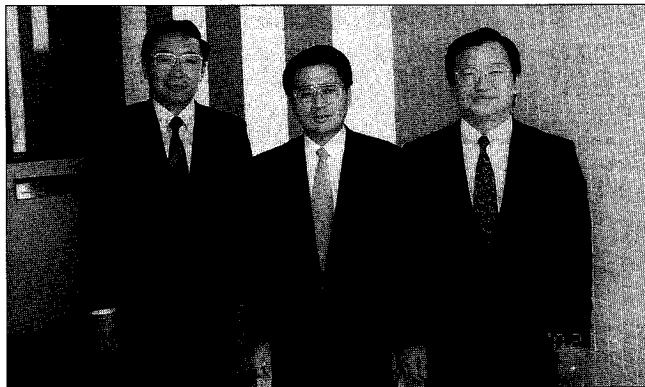
教会関係者が主催した非公式な昼食会で、教会広報部、サトコ・インターナショナル社、ボネビル・コミュニケーション社、チャーチニュース代表者らと同席したムクセフ氏は、教会について受けた良い印象を番組でレポートすると述べた。

スマート兄弟が語るところによると、ムクセフ氏はソビエト国内での人気も手伝い、ロシア共和国議員に任命された。ロシア共和国はソビエトの人口の約70パーセントを擁している。

このジャーナリストの訪問は教会が全世界に広く紹介されるに当たり、また別の意味でも有意義となろう。ボネビル・コミュニケーション社国際メディア部長アイアン・B・マッケイ兄弟はムクセフ氏と対談し、来年6月にタバナクル合唱団がソ連を訪問する際、合唱団のテレビ番組「ミュージック・アンド・スポーツワード」をモスクワから中継し、コンサートの模様をソビエトのテレビで放映する可能性についても検討した、と述べた。ムクセフ氏はこの考えに同意を示し、ぜひ実現させたいと述べたとのことである。

ボネビル社は、タバナクル合唱団のラジオおよびテレビ番組を製作、配給する教会所有の会社である。(「チャーチニュース」1990年8月4日、p.5)

# 再組織された 東京西ステーキ部長会



去る7月15日に開かれた東京西ステーキ部大会で、1984年6月からステーキ部長の責任を果たしてこられた宮脇莊司兄弟が解任され、新たに品川文弘兄弟(写真中央)が召されました。第一副ステーキ部長、第二副ステーキ部長には、児島吉彦兄弟(写真左)と高橋哲郎兄弟(写真右)が召され、その任に当たります。

## 福音のもたらす 祝福によって成長する

東京西ステーキ部  
ステーキ部長  
品川文弘

「この人生で最も大切な責任を果たすときに家族が幸せで、健康でありますように。また、家族の絆が一層、堅固なものとなりますように。」

アジア地域会長会のアドニー・Y・小松長老はステーキ部長の召しの中でこのような祝福を残してくださいました。

大学1年の時に、新聞のローカル記事の中にあった無料英会話の紹介をして、当時動物園の前にあった福岡支部を訪れ、福音を学ぶようになり、

バプテスマを受けたのが、1967年の4月でした。

そして、1974年4月、同じころに英会話に来て改宗した姉妹とハワイ神殿で結婚し、福音の原則に基づいた家庭を築けるよう努力してきました。ある時、教会の指導者から、「人生で成功する鍵は、家庭、教会、仕事の3つのバランスを上手にとった生活をすることです」と教えられ、いろいろな選択をするとき、この原則に基づいて判断してきました。

時には、このバランスを崩して、仕事に夢中になったこともあります。また最初に監督の召しを受けたときは、教会、教会で、後日妻から、離婚も考えていたと言われるほど家族を顧みる余裕もなく、教会活動に没頭した時期もありました。人が順調に成長を遂げることはなかなかむずかしいようです。

特に、日本の多くの教会員たちと同じように、福音への改宗者である私は頭ではわかっていても、今ひとつしつくりせずに、ついよそよそしく振る舞ってしまい、身に付いた行ないができずに悩んだこともよくありました。そのようなときに、折に触れて、立派な兄弟姉妹や指導者の方々と出会い、多くの援助を受けられたのも私たち家族

にとって大きな恵みでした。

また、仕事のこと、生活のこと、子供の病気、肉親との別れなど、この世での試しもたくさんありましたが、それが私たちの成長にとって、いびつで歪んだものとならずに、成長の糧としてここまでやってこれたのも、多くの人々の助けと、何よりも福音のもたらす祝福があったからだと深く感謝しています。

2年ほど前に、ホームティーチングの割り当てを受けていた家族がお墓を奉納するということで、その祈りを頼まれたことがありました。なにしろ初めての経験で、下書きをして準備し、何とか責任を果たすことができました。そのとき同席されていた親戚の方が後でこう言っておられました。「品川さんがお祈りの中でよく使っていた『祝福』という言葉は、クリスチャンらしい、すばらしい言葉ですね。」

「およそ、わが言葉を聞く者よ、われ汝らを悦びてすべての祝福に勝る大いなる祝福をこれに与え〔る。〕」(教義と聖約41: 1)

私は、このステーキ部内に住む教会員の方々が主の祝福を受けて、福音の喜びが得られるように奉仕できたらと願っています。また、主が望んでおられるような祝福が授けられるよう精進し、常に自分自身を磨いていきたいと考えています。「人類が現世に在るのは幸福を得たためである。」(IIニーファイ2: 25)(しながわ・ふみひろ 1947年生まれ)



品川文弘兄弟とご家族

# 東京神殿献堂10周年を迎えて

1980年10月に東京神殿が献堂されて以来早くも10年が過ぎた。この間数多くの人々がそれぞれの立場で神殿の業に携わってきた。今月は献堂10周年を記念して、東京神殿での業を支えてきた人々の証をご紹介しよう。



1975年8月、日本地域総大会で東京神殿建設の支持をとるスペンサー・W・キンポール大管長

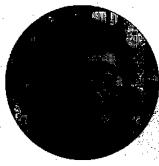
## 東京神殿の歩み

1975年8月10日	スペンサー・W・キンポール大管長、日本地域総大会で東京神殿建設を発表	1985年1月13日	第3代神殿長にサム・K・島袋長老が召される
1980年5月14日	初代神殿長にドウェイン・N・アンダーセン長老が召される	1986年7月9日	東京神殿別館完成
1980年10月27—29日	キンポール大管長、東京神殿を献堂	1986年10月17日	ゴードン・B・ヒンクリー副管長、東京神殿別館を献堂
1982年8月29日	第2代神殿長にアドニー・Y・小松長老が召される	1988年9月1日	第4代神殿長にラッセル・N・堀内長老が召される



東京神殿建設支持の  
挙手をする聖徒たち

# 神殿、私に下さった 主の恵み



東京東ステーキ部松戸ワード部  
山田 明

**19** 65年7月、高価な服装ではないが、希望と喜びに満ちたグループがホノルル空港に降り立ちました。ほとんどの人が海外旅行は初めてでした。家もまだ貧しく、旅行の規制も厳しく、内心不安を感じていたでしょうが、人々の顔は輝き、救いの原則の中で最も大切な主の恵みを待ち望んでいました。結婚したばかりの兄弟と永遠に結ばれるため、また先祖の救いの儀式を自分の手で受けるために私もその一団に参加していました。日本の教会員が待ち望んでやっと実現した神殿参入は、時を忘れさせ、満たされた、平和な夢のような、神を身近に感じられる日々でした。またハワイの会員たちの献身的な愛を受けて、悲しい時代の苦難が癒され、平安を取り戻して帰ることができました。

主の来られる宮居、生者と死者を結ぶ所を建てるよう、ジョセフ・スミスに啓示されて以来、多くの神殿が建てられてきました。どうしても日本に神殿が欲しい、たびたび参入したいと多くの人が願い続け、貧しい中から基金を納め、世界中の会員の助けによって、第1回のハワイ神殿訪問の日から15年の月日の後に東京神殿が完成しました。ハワイやソルトレークの神殿に参入したときやさしい笑顔で私たちを助けてくださった姉妹たちのように、私も神殿の奉仕の業に召されたのです。そのころから少しづつ体調のすぐれぬ私に、監督が、姉妹は神殿にいると元気になって全然違うと言うほど、力をいただける所となりました。「その肉体再新する」(教義と聖約84:33)と言われるところ、目に見える特別な経験をさせていただき、神の場所との確信を強く

しながら奉仕することができます。神を思い、心を主に近づけるとき、先祖たちの思いを知ることができます。その人たちの系図を見つけ、100人近い人の儀式を受けることができました。その喜びの声が聞こえて来るかのように感じたのは、一度だけではありません。その中には自分が忘れたり、できないと思っていた人たちもいました。まだ問題があつて搜せずにいる人も、努力すれば必ずできると信じています。

私たちが教会員になることは先祖の大きな願いであるような気がしています。私が教会に入り、まだ系図のことなど何も知らないときに、亡くなった叔母が夢に現われ、「あなたが教会に入ったので安心している」と言って去って行つたことがありました。長い時間待たせましたが、その叔母の儀式も済ませることができました。

神の家の清きを味わうことができ、こんなに清い所に住めるなら何もいらない、と思えるほど様々な体験をし、信仰による正しい行ないがどんなに大切かを教えられ、たとえ十分と思えるほどの働きができていなくても神は愛してください、み手の内に置き、支えてくださるとわかりました。この世に残された日は長くはなくとも、より多く神殿に参入し、主のみ業に働きたいということが私の願いです。そしてそれはみこころのままになされるでしょう。

「キリストの御許に来てキリストによって全くなれ。」(モロナイ10:32)神殿こそまさにその場所であり、混乱の世にあっても主に守られ、人々を救いに導く所です。そのような場所で思いを尽くし精神を尽くして働く幸せに感謝しています。

主はまさに生きておられ、私たちの願いを聞き、正しきに導かれるることを心から証します。(やまだ・とし  
1921年生まれ)

# 東京神殿完成の 思い出



横浜ステーキ部横浜第2ワード部  
柳田聰子

**19** 75年8月、東京の武道館で日本地域総大会がありました。私たちは伊豆の韭山にいたので、沼津支部の人々と共に出席し、所属は名古屋伝道部でした。日曜日の一般大会のとき、キンボール大管長は大きな額を持って来られて皆にお見せになりながら、東京神殿建築の予定を発表されました。それは美しい神殿完成予想図でした。はっと息を飲むような驚きと、喜びが盛り上がって安息日のお話にはしないはずの拍手が底から吹き出したように全館に広がっていました。この拍手は制せられず、私たちは心からの歓喜と感謝を込めて拍手しました。あの感激は忘れることができません。

1980年3月18日、当時の地区代表田中健治長老から関東7ステーキ部の扶助協会が神殿開館前に大掃除をするように、また私がこの7ステーキ部をまとめるようにとのお話がありました。そのお掃除はシャンデリアを下ろして一つ一つ水晶を磨き、壁も床もいすもすべてを美しく磨くとのことでした。私は早速各ステーキ部の扶助協会会长に連絡し、お願いしました。毎日午前50人、午後50人、延べ400人を動員しなければなりませんでした。5月27日には当番申し込みを集計し整理できました。子育てに忙しい姉妹たちも助け合って交替で奉仕に参加する申し込みが多く、いかに神殿に対する喜びと期待が大きいかを痛感しました。田中長老も清掃参加の姉妹にあげましょうと美しいカードを用意してくださいました。6月17日ソルトレークからマクフィ長老が神殿の清掃指導に来られました。翌日から清掃を始めることになっていました。ところが17日火曜夜、建設会

社の人が、そんなに大勢の人が出入りしたらかえって汚れる、会社はきれいに清掃してから引き渡しをするのだから掃除はやめてほしいと言ってバケツやモップを見て怒っているらしいのです。マクフィ長老は今まで10カ所もの神殿を手掛けたのだからと主張されました。議論の結果、彼らと私たちは実地検分することになり、確かに清い宮として清掃されているのを見届けました。マクフィ長老は扶助協会の清掃奉仕を取りやめると結論しました。翌朝から始める手はずになっていたので、遠い人は朝6時ごろに家を出るはずでした。急ぎよ全ワード部の会長に連絡しなければならなくなり、夜9時半近くから各ステーキ部の会長はそれぞれ、現場の事務所だけでなく使える電話総動員で各ワード部に連絡しました。私は日本の神殿が初めて扶助協会の姉妹たちの手をかけずに業者から引き渡されることを知り、日本の業者のやり方に感動と誇りを感じました。同時に万難を排して奉仕を申し出た人々が、アブラハムがイサクを犠牲にする直前に神様から中止されたのと似たような信仰を表わしたのだと思って神様のみ旨を感じました。

6月1日、神殿獻堂式には聖歌隊が歌うと発表され、神殿内は狭いから人数に制限がある、オーディションをするとのことで歌うことが好きな兄弟姉妹が吉祥寺に集まりました。20人余りの人が選ばれて翌週から毎日曜夜の練習が始まりました。坂戸市にいた私は2時間かかる道程をものとせず神殿で歌う希望で欠かさず出席しました。他の人々も遠い所からよく集まりました。8月1日からは2泊3日で北軽井沢の合宿練習がありました。聖歌隊メンバーはますます親睦を深め楽しい息の合ったコーラスに成長していました。

8月28日、私たち夫婦はかねてからお召しを受けていた神殿宣教師として麻布の宿舎に引っ越しました。川越ワード部の方たちにはひとかたならぬお世話をいただきお別れして東京に移りました。

9月1日からは儀式のための訓練と

勉強の日々となり、順次赴任してこられた9組の夫婦とふたりの姉妹が別個の部屋ではありましたがひとつ屋根の下に住むことで家族のような親しさと愛が広がっていました。

アンダーセン神殿長ご夫妻と息子さんのダグラス兄弟の指導を受けて10月27日の獻堂式まで喜びと希望に満ちて儀式開始に備えました。獻堂式の夜はキンボール大管長や幹部の方々と共に神殿の中で遅くまで感激と感謝に満ちた時間を過ごしました。あれからもう10年、神様のみ業は輝かしく発展していることを自分の目で見ることができて心が震えるような喜びと感謝でいっぱいになります。「神殿の祝福」が確かにあることを主のみ名により心から証します。(やなぎだ・としこ 1919年生まれ)

## 愛の恩返し



横浜ステーキ部横浜第2ワード部  
柳田藤吉

未 日聖徒として最高の祝福である神殿について勉強するたびに、参入の経験のない私はひとつの寂しさを覚えていました。それゆえ、ハワイ神殿訪問計画を知られたときの喜びは大きいものでした。

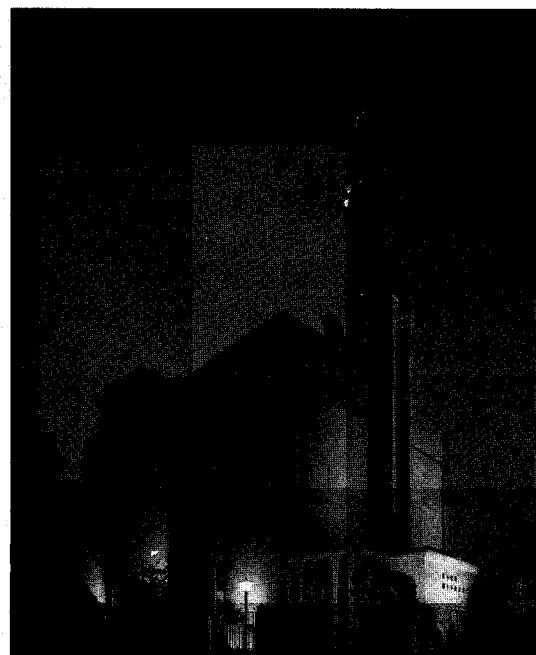
しかし、私にとって、その費用や会社への短くない欠勤などを思えば決して容易なことではありませんでした。けれどもハワイ空港に着き、空港まで迎えに来てくださっていた帰還宣教師たちに会い、とりわけ大きな手で手を握ってくださったアンドラス兄弟のほほを流れる涙に接したときの感激は終生忘れることが

できません。そして東京にも神殿が建立され、私も奉仕者の一員として召されることになったとき、あのハワイ神殿で受けたあつい愛の一部でも恩返ししたいと思ったのでした。

東京神殿の最初の宣教師は、ユタから井上夫妻と真野、野田の両姉妹、ハワイから鈴木、金綱両夫妻、国内からは仙台の塩夫妻、福岡の重岡夫妻、東京地区から丹羽、奈良、渡部、柳田の各夫妻の計20人でした。

ドウェイン・アンダーセン神殿長は副神殿長に井上長老と松下兄弟を、アシスタントメイトロンに鈴木姉妹を召されました。また伴って来られたご子息のダグラス兄弟に儀式の具体的な指導にあたらせ、ご自分も私たちの任務その他についてたびたび教育されました。施設の長には藤岡の市会議員でもあったある大手企業の課長さん、徳田兄弟が来られました。本当に思い出せば懐かしい方々ばかりです。

当時はまだ神殿別館がなかったので、私たちは神殿から15分ほどのエリートインアザブに住みました。今でも思い出されます。朝風のすがすがしい夏、そして指も凍る寒い冬の朝に、坂道を上って下り、神殿に通った日々を。(やなぎだ・とうきち 1912年生まれ)



東京神殿

# 輝かしい贈り物



東京神殿宣教師  
中村式子

**東** 京神殿の献堂式に出席させていたのが、つい数年前のようでしたのに、はや10周年を迎えようとしています。

初代の神殿長をはじめ現在の神殿長および姉妹に心から感謝申しあげます。また今までに神殿宣教師としてご奉仕くださった(国外を含めて)兄弟姉妹、また東京神殿が始まってから現在に至り奉仕のみ業に携わってくださっています兄弟姉妹に心から感謝します。職員の兄弟姉妹のお働きにも心から感謝します。10周年を迎えるに当たり2年前より私も神殿宣教師に召されて奉仕させていただいているが、本当に感謝でいっぱいです。九州から神殿参入のために来ていたときには、儀式を受けることに一生懸命で、そしてまたその喜びだけでいっぱいだったように思います。それに加えて今は奉仕に携わる側としての喜びが加わり神様の愛がもっともっと身近に感じられるようになりました。教義と聖約の18章10節に「汝ら、人の値は神の前に大いなることを憶えよ」とあります。また永遠に生きる祝福も以前にまして大きくなつてきました。神様のおっしゃることを兄弟姉妹の皆様と共に謙遜に従順に聞き受け、最後まで忍耐していくことの大切さをたびたび知る時に、力がみなぎり、心は平安と幸せで満たされるのです。両親との結び固めを行なったかわいらしく女の手紙には、このような言葉が記されていました。「兄弟姉妹、神殿でお世話になりました。神殿はきれいですね。姉妹たちは神殿で働いていることはできなことですよ。私は、将来神殿で結婚をしたいと思っています。私はそう信じていますよ。神殿に行ってよかったです。兄弟姉妹、



神殿別館の中にあるアパートでくつろぐ神殿宣教師

体に気をつけてください」と。神殿で子供の控え室と結び固めのお部屋で過ごした幼な子に主の愛が注がれましたに満たされたのでしょうか。このように幼な子からまた多くの参入者から、美しく、甘く香り高い、輝かしい贈り物をいただきます。そして小さかった私は少しずつ大きい実を実らせています。神殿は主の宮居で、主の愛で満たされています。主に感謝しつつ。(なかむら・のりこ 1935年生まれ、鹿児島地方都宮崎支部出身)

## 奉仕の館 完成に近づく所



東京神殿第一副神殿長  
中村良昭

**東** 京神殿は、昭和55年10月27日、キンボール大管長によって献堂されて、今年で10周年を迎えます。それまでハワイへ行かねば神殿の儀式を受けられなかった聖徒にとって、東京で神殿の儀式が受けられるということは、本当に大きな祝福です。東京神殿が献堂されて、日本の末日聖徒には新

たな時代が始まりました。信仰の証として、光の源として、自分の救いのため、死者の救いのため、神殿に熱心に参入してくださっています。儀式の数は年々着実に増加を続け、昨年1年間に13万件以上の儀式が行なわれました。神殿の歩みを振り返るとき、この神殿の業を推し進めてくださった歴代神殿長、神殿宣教師に心から感謝申しあげます。それに加えて、オーディナンスワーカー、神殿職員、奉仕をしてくださった兄弟姉妹の方々の労苦と犠牲にも感謝申しあげます。また日本の各地から、多くの犠牲を払って神殿参入してくださる忠実な会員の方々にも、感謝申しあげます。多くの方々が希望を持って神殿に来られ、喜びを持って帰られる姿を見るとき、神殿の業のすばらしさと、日本の末日聖徒のたのもしさを心に強く感じるのです。

私どもも夫婦で神殿宣教師として奉仕に来て、早くも2年がたとうとしています。この間に、主の宮居のすばらしさ、夫婦で奉仕するすばらしさ、参入される方や奉仕される方と交わる喜び、日本中の聖徒と会える感激、神殿長から学ぶものなど、多くの証、知識、そして祝福を受けてきました。その中でふたつのことをご紹介したいと思います。

第1は、神殿は奉仕の館だということです。オーディナンスワーカーの兄弟姉妹の多くは、職場から神殿に直行して奉仕をしてくださり、夕食は夜11

時を過ぎるとお聞きします。また弁当を持参し、昼から夜にかけ奉仕をしてくださる方々もおられます。本当に敬服しています。一方年間4万6千のエンダウメントが行なわれていますが、そのうち自分のエンダウメントは1.5パーセントです。残りの98.5パーセントは死者のための儀式であり、これはすべて身代わりの儀式です。つまり死者への奉仕です。この奉仕はエンダウメントに限りません。神殿で行なわれるすべての儀式が、自分の儀式以外はすべて奉仕になります。奉仕を通して私たちは、喜びを深め、成長することを認識しました。

第2は、神殿は聖徒を完き者とする所だということです。日の光栄の王国に至る準備をする過程で、聖徒は完き者へ近づくことができるのです。今神殿に参入する最高齢者は奈良富士哉兄弟です。奈良兄弟は92歳です。毎週木曜に姉妹と参入され、姉妹は奉仕を、兄弟はエンダウメントを受けられます。奈良兄弟が儀式を受けられる態度は従順、謙遜そのものであり、その態度は毎週変わりません。神殿参入の模範であり、その態度から私たちも学ばされるのです。従順、謙遜な態度で儀式を受け、それを積み重ねていけば、私たちは一歩ずつ主に近づくことができ、

理解の目も開かれ、完成へ近づいていくのだということを認識しました。

またこの2年間に、私たちは個人的に特別な経験をいたしました。結婚し、こちらで生活している長女のお産は初産でしたが、私たちが神殿にいたために里帰りの必要もなく、お互いに安心して初孫の誕生に臨めました。それと交代するように、昨年1月に父が、9月には母が相次いで亡くなりました。しかし今年の9月には父と母の身代わりの儀式が完了しました。8月には長男が神殿結婚をしました。バプテスマ、按手礼、アロン神権、メルキゼデク神権。すべての儀式を授けてきた長男に、最後の儀式と言える神殿結婚を、父として執行できる特権を与えられました。主はすべての時をご存じで、私たちを神殿に送られたことがわかりました。

私たちは常に主のみこころを尋ね、それに従うとき、大きな祝福が与えられることを証いたします。

東京神殿は、末日聖徒にとって奉仕の場であり、完成への歩みを確かなものとする場であり、喜びと希望を与える場であること証いたします。その神殿が東京にあることを、主に心から感謝しています。(なかむら・りょうじょう 1931年生まれ、鹿児島地方部宮崎支部出身)

## 主の宮居を整える



東京神殿施設部長  
徳田和義

日々たくさんの人々が東京神殿を訪れ、明るい喜びにあふれた笑顔でそれぞれの家に帰って行かれます。特に北海道や九州、沖縄をはじめ遠方から団体で神殿を訪問される姿を見るとき主に対する固い信仰心、あふれるばかりの強い愛を感じ感激したり、また自らを顧みて反省したりする昨今であります。振り返ってみれば東京神殿が奉獻されてもう10年が経過しました。「光陰矢の如し」の言葉どおり本当に早いものであります。私も神殿に召されてやがて11年が終わろうとしています。

私に東京神殿のエンジニアとしてどうかとお話をあったのは1979年の春であったと記憶しています。当時ある会社の施設課長であった私は大いに迷いもし、引き止められましたが、大学生であった長男から「お父さん、神様の仕事だから絶対やるべきだよ」と励まされ負うた子に教えられる思いがしたものがありました。1979年の暮れにその会社を円満退職し1980年の正月から東京神殿に召されることになりました。まだ鉄骨もあらわで各階のコンクリートの打ち込みや電灯、動力工事の最中でもあり、一部仕上げ工事の所や機械の据え付けなど最も多忙な時期でした。私が東京神殿に召されたこともまた、この10年間事故もなく無事に過ぎたことも本当に不思議な気がしています。

改宗した当時私の歩みは極めて遅々としたものであります。それをここまで導いてくださったのはふたりのホームティーチャーや指導者のおかげであり、また当時同じ時期に改宗した家族と共に励まし合い、いたわり合った結果であったと思っています。また学



東京神殿で奉仕する宣教師



神殿の外壁を塗り直す職員

校を卒業して退職するまで一貫して電気、ボイラー、建築、公害処理など施設関係の設計管理の仕事をしてきたのも何か神殿を通して神様の仕事をするための準備であったのかと思っています。「主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてある」(Iニーファイ3:7)ことを痛切に感じています。ベンジャミン王は次のように語られました。

「お前たちが同胞のために務めるのは、ただお前たちの神のために務めるのであ〔る〕」(モーサヤ2:17)また教義と聖約には「これを以て汝忠実なれ。而してわれに命ぜられたる職務に服し、弱きを扶け、垂れたる腕を挙げ、かよわきひざを強うすべし」(教義と聖約81:5)とあります。私たちの仕事はチームワークと奉仕の気持ちが最も大切であります。そして人の目の届かない所においても職場で忠実に協力し合い、助け合うことが大切であります。私は幸いにも今までの会社でもまた神殿の仕事でも少ない人員で最大の効果をあげができるようお互の協力関係と心の平安を培つくることができました。それぞれの人が固定した仕事だけでなく、メンテナンスも視聴覚機器も、また電気もボイラーも空調関係もすべてできるように技術を身に付けておくことが大切であります。

主は言われました。「日本の中にあまねくところに神殿が建てられるであろう。近い将来日本の至る所に神殿

が建てられることでしょう。この東京神殿の職員の中からきっとそのために主に召されるでしょう。主は「それ、小なる事より偉大なる事起る。……喜びて従順に従う者たちは、……シオンの地の善きものを食わん」(教義と聖約64:33-34)と教えられています。私たちの行なう仕事は神様の目からごらんになってそれぞれは小さなものであります。しかし私たちが喜びをもって真心から尽くすならば、それは偉大な仕事の基礎を作っていると思っています。10年前キンボール大管長は奉獻の祈りの中ですべてを祝福された後、建物の基礎より尖塔の最先端に至るまですべてを受け入れたもうよう祈られました。そして壁や仕切り、床、その他機械、衛生設備、塀や歩道を含めてあらゆる損傷からまた火から破壊から、洪水や地震から守られるように祈されました。私たちは祈りを通して願い求めたあとはその願いがかなえられるよう努力しなければならないと思っています。私たちはキンボール大管長が祈られたように主に捧げられたこの聖なる東京神殿をいつまでも美しく保つていく義務があると思っています。

確かに神殿はすばらしいところです。主の助けと導きのあるところです。確かに主は生きてましまして神殿ですばらしい主のみ業がなされていることを心から証いたします。(とくだ・かずよし 1934年生まれ)

## 東京神殿献堂 10周年に寄せて



東京神殿記録部長  
松下泰洋

「聖きを主に捧ぐ」という金文字の真下に今や主の宮居のコーナーストーンが置かれようとしていました。時は1980年10月27日午前10時。アジア最初の神殿の献堂式に先立って行なわれた定礎式でした。午後3時、日の栄の部屋を中心に、神殿内の各部屋には、所狭しと聖徒たちが集まりました。彼らはキンボール大管長の管理の下に厳粛に行なわれた献堂式をかたずをのんで見守っていました。あの感涙にむせんだ献堂式の日よりはや10年の歳月が流れました。毎日神殿内で働く者は、時の経過を忘れ、主の時とはこのようなものかと思います。しかし、6,000人を超える生者のエンダウメント、36万人に及ぶ死者の諸儀式を振り返り、往来した人々と出来事の数々を思い返すとき、この10年は大きな犠牲と献身の長い長い年月とも感じられます。過ぎる10年間、参入者として、また儀式執行の奉仕者として働いてくださった兄弟姉妹に心からの感謝を申し上げたいと思います。36万人の死者の喜びと感謝の思いは、必ずや皆様の胸中に深く伝えられているものと確信します。今年は第1回ハワイ神殿訪問25周年、東京ステーキ部創立20周年、地域総大会(神殿建設発表)より15年、東京神殿献堂10周年と歴史的な節目の年です。去る8月11日(土)にはハワイ神殿訪問25周年を記念して、特別なエウダウメントセッションと懇親会が神殿で行なわれ、感激の涙を新たにしました。あの教会歴史に類を見ない長距離に及ぶハワイ神殿訪問を計画提案し、実現を見たドウェイン・N・アンダーセン伝道部長が初代神殿長(2年)に召されたのは決して偶然ではなかったと

思います。続いて元日本伝道部長、現七十人第一定員会会員のアドニー・Y・小松長老が第2代神殿長(3年)となられました。第3代神殿長は元仙台伝道部長のサム・K・島袋長老(3年)が務め、元札幌伝道部長のラッセル・N・堀内神殿長が第4代神殿長として現在に至っています。

この間13人の副神殿長が召され、それぞれの神殿長を補佐してきました。また東京神殿の儀式執行を支える中心である神殿宣教師は国内(60人)、ハワイ(38人)、アメリカ本土(16人)、台湾(1人)と各地から召され、延べ115人にも達しています。現在の神殿宣教師は16人で、さらにカップルの宣教師を求めています。また現在地元東京地区から定例の奉仕をしてくださるシラーは25人、オーディナンスワーカーは男性161人、女性44人、団体参入時のみ奉仕の地方のオーディナンスワーカーは男性103人、女性67人、その他奉仕の姉妹は40人、またフルタイムの従業員は30人となっています。

また過去10年間の系図処理数および儀式執行数は14ページのグラフのとおり着実な伸びを示しており、今年末には5万人の儀式達成が期待されます。現在全国で有効神殿推薦状を持つ会員は約8,000人ほどで、これらの限られた条件下で参入と奉仕をされる兄弟姉妹の涙ぐましい努力の姿にはただただ頭が下がる思いです。

これらの結果は内容的に見て、教会の他の神殿地区と比べても決して優るとも劣らないものであることを付け加えさせていただきたいと思います。

また特筆すべきことのひとつは、建物維持の面で、東京神殿は現在もなお新しい建物のようであるとの驚きと称賛を毎年受けており、メンテナンスはナンバーワンとの評価をいただいていることです。これもひとえに徳田兄弟をはじめ施設のスタッフの日々の努力と参入者皆様の心遣いのたまものと心より感謝をするところです。教会の神殿運営の進歩向上の目安として、一儀式当たりのコストがいくらになるかという計算を用います。開設当初東京神殿のコストは約6,000円でしたが現

在ではその半分以下に下がっています。もちろんこの数値は神殿の総予算から割り出す単純コストであって参入者や奉仕者の皆様の時間、労力、費用は一切含まれていません。ちなみにユタ州内の各神殿の平均は一儀式当たり300円以下というから驚きです。それなりの歴史と聖徒たちのたゆまぬ努力が先輩諸神殿なみの結果をもたらしてくれるものと新たなチャレンジとして先が楽しみです。

この主の宮居を通して培われてきた固い信仰と証が日本の末日聖徒の未来に大きな祝福と喜びをもたらしてくれるものと確信しつつ、東京神殿のあらゆる面の運営を支えてくださる兄弟姉妹の皆様に重ねて心から感謝します。

最後に、私も証をさせていただきます。これはまだ韓国に神殿が建てられていなかつたころの話ですが、韓国から朴姉妹、崔姉妹というふたりの方が東京神殿に来られ、先祖の方々のための儀式を数日にわたって受けられました。そして金曜日、予定した儀式をすべて終えたふたりは、満足した気持ちで床に就いたのですが、明くる土曜日の朝、朴姉妹がある人に起こされました。その声の主は中国の女性で、「早く起きなさい。神殿に遅れますよ」と言いました。目を覚ました朴姉妹は崔姉妹が言ったのだと思って聞きましたが彼女には覚えがありません。そこでふたりはとにかく神殿にやってきました。そして私に「残っている記録がありますか」と尋ねるので、私は「もう金曜日に全部終わりましたよ」と答えました。それでも念のためと思ってファイルを調べると、驚いたことに、中国人の女性ふたりの記録が未処理のまま残っていたのです。朴姉妹は、朝、自分を起こしたのはその中国人のふたりだったのだとわかりました。

こうした話は神殿では珍しくありません。しるしを求めるのではありませんが、私は神殿は現世と靈界との交差点であって、両方の世界に住んでいる人々が互いの望みと主のみこころにより心を交わすことのできる場であると確信しているのです。(まつした・やすひろ 1939年生まれ)

## 神殿と毛皮



高崎ステーキ部前橋ワード部  
松沢利行

**神** 殿と毛皮、ふたつの相反するものが私の生活に同居しています。神殿参入は靈の糧であり、毛皮業は肉の糧です。

私は27歳のとき毛皮業で身を立てようと思い、ある人に資金のことで相談し、いろいろとアドバイスしていただきました。その後、その人は私が事業資金の融資をどこかの金融機関からも断わられているのを見るに見かね、「若いうちに早く商売を始めなさい」と言って事業資金を準備する援助をしてくださいました。そして「私があなたに資金の世話をするのは樂をさせるためではない。むしろあなたはこの金によって苦労するでしょう」と話され、「真冬に裸で赤城山に登るよう言われたら登ることができる。しかし金のないときの苦労はそんな生易しいものではない」と、私に商売の心構えを諭してくださいました。実際に商売を始めてみて、その人の言ったように、赤城山の真冬の厳寒を裸で登るつらさより、資金難の苦しさの方がどんなにつらいかがわかるようになりました。

私は赤城山でミンクを飼育し、8年前に前橋市で毛皮店を始めました。折しも毛皮業界の不況のあおりを受け、2年ほどで店をつぶしてしまいました。しばらくして、あるステーキ部大会で当時のステーキ部長の北村正隆兄弟より「神殿に度々参入するように、特に苦しいときほど神殿に入って神様から導きを受けることが必要です」というお話を聞き、私は感銘を受けました。当時も月に1度は神殿に参入していましたが、それからは週に1度は参入しようと決心しました。私は21歳のときより支部長会、監督会の責任を長年受けましたが、ちょうどそのころ高等評議員の責任に召され、それまで毎

週行なっていた監督会などの集会から解放され、その空白になった時間を使って神様のために奉仕したいと思っていたところだったのです。

毎週神殿参入しようと決心してから4年になります。群馬県赤城山西麓から片道約4時間かけて東京神殿に向かうとき、私の心中は商売が繁盛するよう、一筋の望みをもって神殿参入すること度々です。

私は神様から多くの恵みと施しを受けております。東京での商売上の取り引き先も増えてきました。それにつれて、より良い条件で商売ができるようになり、今年の春、小さいながらも再び前橋に倉庫兼用店舗を出すことができるようになりました。

現在、私は神殿の奉仕の責任をいたしております。週に1度、この世の煩いから離れ永遠の行く末に思いをはせるとき、心の中に平安と慰めが与えられ、新たな活力が体内にみなぎるのを感じます。このとき私はイエス様の言われた「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」(マタイ11:28)という聖句を思い出します。

神殿の儀式の中で、先祖にかかる主の遠大なご計画に参加できることは私にとって祝福です。イエス様は私たちが救われるために私たちの身代わりとして十字架上で亡くなられました。私はイエス様の模範に従い、先祖の人たちのために身代わりとして奉仕したいと思います。そうすることによって私自身の救いにあづかることができるからです。

人々と愛をはぐくみ、夫婦相和し、子供たちを慈しみ、主の教えを学んで主のみもとに帰ることができるよう、主の戒めを守り続けたいと思います。  
(まつざわ・としゆき 1953年生まれ、高等評議員)

## 死者の贖いの業に携わって

名古屋西ステーキ部福徳ワード部  
高橋宏至

系図を調べ、神殿に参入して、これまで様々な経験をしてきました。その中でも特に心に残っていることがあります。

1983年の夏、私は母方の系図探究のために岐阜県揖斐郡東小島村を訪ねました。前日、祖父の実家で教えてもらった栗野姓を目当てに、村はずれの墓地へ入って行きました。墓地の中ほどの場所で突然、私は興奮に似た息苦しさと動悸を覚え、何か大きな見えない力に捕らえられたように感じました。不思議なことがあるものだと感じつつ、墓石群の名前を見ながらさらに奥の方へ入って行くと動悸は元に戻りました。そしてもう一度その辺りに近づくと、私の体は再び同じ状態になるのです。

しかしこの村は栗野姓の人がほとんどらしく、どの墓石にも栗野の文字が刻まれ、どれが私の直系の先祖のものであるか見分けがつきません。小学校の校長をされていたやはり栗野さんという方の家を訪ねたところ、幸運にも健在で、立派な過去帳から、十世代さかのぼる先祖の名前を教えていただきました。後に案内された墓地の場所は驚いたことに、先程の所だったのです。「これは先祖の墓、こちらはさらにさかのぼった先祖の墓です」と示されたのは、紛れもなくその場所でした。古い先祖の墓は5坪ほどの広さがあり、こけむした30余りの石碑が所狭しと並んでいました。大勢の先祖の靈が何かを私に語りたかったのでしょう。確かに彼らは当日、子孫の一系である私が、何のためにこの地を訪れたのかを、知っていました。そしてそれを待っていたのです。私の系図探求で十世代さかのぼることができたところはほかにはまだありません。

このようなこともありました。1986年のゴールデンウィークに、私と息子の賀守男はステーキ部の青少年の神殿

訪問に参加していました。確認の責任をいたしました私は、バプテスマフォント脇のいすに腰かけて、大勢の信仰あつい少年少女の、ほほえましい奉仕の姿を目にして平安を感じていました。当日は確か3つほどのステーキ部からの青少年で混雑しており職員の皆様も大そうご苦労されておられました。

やがて私の息子の順番が来て、白い衣に身を包んだ、小柄な我が子がフォントに胸まで浸っているのを目にして、大きな幸福感を味わっていました。そのときひとりの聞き覚えのある方の名前が読み上げられました。それと同時に、私もその同じ名前を証人席で確認して驚きました。この方とは仕事を通して知り合い、十何年も親しくしていただきました。けれども彼は私が改宗してしばらくして事故に遭い、臨終間際に病院のベッドの上で神権の祝福を授けて見送ったのでした。自分自身の系図をひととおり提出した私は、奥さんの了解を得て彼の実家の長崎の役場から戸籍謄本を取り寄せ、1年以上前に神殿ファイルにして東京神殿に送っていました。なんという巡り会わせでしょうか。当日は5,60人ほどの青少年が奉仕の業に参加していたと思いますが、その方の身代わりの儀式の順番が偶然にも私たち親子に回ってくるとは。「彼がこの場に来ている。このフォントの近くのどこかで私たちを見ている。」この日私は本当に大きな喜びを味わうことができました。神様は本当に不思議な方法で靈的な経験を与えてくださることを証します。福音は真実で神殿のみ業も真実です。(たかはし・ひろし 1942年生まれ)



# 「汝ら決して報いを失わじ」



東京北伝道部  
菊地妃朗子

**教** 会員の義務として始めた系図探求ですが、興味深く、直系4代の人々は約3カ月で調べ終わり、神殿に提出いたしました。私は、「2マイル行く精神でするなら、神様は喜んでくださる」と思い、自分の傍系を調べ、除籍謄本が手に入らなくなると、親戚、お寺、電話局、図書館など、手紙を書いたり電話をしたりしました。私は夫の先祖についても同様にいたしました。このことをしているとき、系図探求が趣味のように、心に喜びと楽しみを感じました。いつも心の支えにしていたのは、教義と聖約127章4節の「汝ら決して報いを失わじ」という主の約束でした。

馬渡（九右衛門）家先祖代々之靈位					マ 13
(年月日)	(法名)	(俗名)	(姓)	(当主名、続柄など)	
↓ 宽文 2 01-22	東道道一博士	馬渡	九右衛門の父	△	
↓ 宽文 13 05-09	香理清秀君女	馬渡	九右衛門の母	△	
↓ 天和 3 05-08	秋月清繁	馬渡	九右衛門の伯母	△△	
✓ 貞享 2 02-03	周善宗故博士	馬渡	九右衛門の叔父	△	
↓ 貞享 2 05-15	真窓了天博士	馬渡	九右衛門の子息	△	
↓ 貞享 3 02-29	春庭童女	馬渡	九右衛門の子	△△	
↓ 元禄 3 04-15	光延榮心宿女	馬渡	九右衛門の室	△	
↓ 元禄 4 08-01	秋月重子	馬渡	九右衛門	△△	
✓ 元禄 10 11-24	月差了秋村女	馬場	九右衛門の祖母	△△△	
↓ 家保 1 12-05	然善存源種昌居士	馬場	九右衛門 草野昌昌	△	
↓ 家保 2 02-15	高茶追詩博士	馬渡	九郎兵衛の実父 於辻州	△	
↓ 享保 1 07-22	蘭庭英秀君女	馬渡	九右衛門の娘	△	
↓ 享保 1 11-27	苦竟院素林善女	馬渡	九右衛門の妻母 於肥後死	△△	
↓ 宽保 2 01-18	鶴敷如意博士	馬渡	九右衛門の養子	△△	
↓ 廷享 2 10-08	仙茅院桂林雲壽君女	馬渡	九右衛門	△	
↓ 宽延 1 11-24	壽院映山天連居士	馬渡	九右衛門	△	
↓ 宝曆 6 11-19U	藍葉院雪香信君女	馬渡	九郎右衛門	△	
✓ 宝曆 9 08-07	秀芳童女	馬渡	1 九郎右衛門の子	△△	
✓ 明和 1 09-05	賀路慶元童子	馬渡	九郎右衛門の子	△	
↓ 明和 6 02-05	泡春童子	馬渡	九郎右衛門の子	△△	
✓ 天明 4 05-29	黒島院延山天瑞居士	馬渡	九郎右衛門 於江戸死	△	
↓ 宽政 4 03-27	念潤智也君女	馬場	九右衛門の母	△△	
↓ 文政 2 07-19	晴翁天応秋山居士	馬渡	九右衛門の息	△	
↓ 天保 8 01-07	春雪童女	馬渡	九右衛門の子	△	

菊地姉妹が寺で入手した資料の一部

私の父方の系図は、市役所の資料が昭和23年に焼失しておりました。私は「お寺に行き、墓石でも調べればもう少しわかるかもしれない」と思い、昨年春、福井県のお寺を訪問いたしました。そのお寺は1400年代からの記録を持っていました。私はのどから手が出るほど、それらの記録が欲しいと思いました。長い間、私は「系図の記録が集められ、ひとりでも多くの先祖と、それに関連する人々の名前がわかるように」と、祈っていたのです。しかし、その記録をお寺で写すのには多くの時間が必要で、私にはその時間がありませんでした。しかし驚いたことに、住職さんは、過去帳の記録を全部、家族別、年月日順、実名と戒名、続柄などを入れて、ワープロで整理してありました。お寺にはコピー機も備えており、私は整理された記録を全部コピーしていただくことができました。私にとってこれらの人々の名前は、長い間待ち望んだ宝の山でした。ニーファイの証は本当です。「主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてある。」(I ニーファイ 3 : 7)

私はそのお寺の住職さんに、自分がクリスチャンだとは言いませんでした。しかし、驚いたことに、住職さんはこのように言いました。この亡くなった人々は九州の島原から来たクリスチヤンの有馬大名の家臣で、生き残るためにキリスト教から仏教に改宗した人々とその子孫だと。

私は、このお寺の記録から数千人の死者の名前を神殿に提出いたしました。モルモン經の中にはこうあります。「イエス・キリストの福音が、彼ら〔私たち〕の中に宣べ伝えられるから、それによって、彼ら〔私たち〕は自分らの先祖のことを知り、またその先祖がイエス・キリストのことをよ

く知っていたことも知るようになる。」(II ニーファイ 30 : 5)この聖句は本当です。私は祈りながら自分にできる最大限の努力をするとき、主が祝福し、備えてくださることを証します。(さくち・ひろこ 1949年生まれ)

## 3,000人の先祖のために



沖縄那覇ステーキ部糸満支部  
西銘陽子

**私** が系図を書き始めて10年余りになります。そのころは東京に神殿が建ち、喜びに満たされている時でした。教員として直系の系図を出すのは義務だと聞かされ戸籍を取り寄せて書き始めました。6代までさかのばると年代が古く戸籍がなく直系はそれで終わってしまいました。これで系図を書くのは終わったと思って書くのをやめましたが、直系は義務だけど傍系は祝福ですと聞かされ、また戸籍を取り寄せ毎日書くようになり現在に至っています。傍系はいくらでも広がり何年書き続けても終わることがないことを知りました。10年間でバプテスマを受けた人の名前は3,000人余りになっています。この人たちの名前を見るとき、靈界で私の先祖がどれだけ喜んでいるかと思うとき、手を休めることはできません。まだたくさんの先祖が系図を出して神殿で身代わりのバプテスマを受けてくれることを待ち望んでいるのです。沖縄から東京の神殿にはたびたび行くことができず、3,000人余りの身代わりのバプテスマやその他の儀式をだれかが受けてくださっていることを心から感謝しています。何をするにも10年間続けることを目標にしていますので、系図も10年間続けることによって今は系図を通してたくさ

人の喜びが得られていることを感謝しています。10年の間には系図を書くのが時々途切れることがありました。書かない理由はいろいろあったのですが、系図を書かなくなると心に平安が得られなくなるのをいつも感じ、また書き始めるのです。何度も挫折をしながらでしたが今まで続けられたこと、今は喜びを持って書くことができるようになったこと、自分の力ではどうすることもできないとき、神様の助けがあったことを感謝しています。最初は苦痛でも長く続けることによって、それは喜びになり、祝福になることを感じることができます。この喜びを私だけでなく、ひとりでも多くの人に味わってもらうようとする責任があると思います。今までに神様からたくさんの祝福が与えられていますのでその祝福を人々にも分け与えたいと心から願っています。(にしめ・ようこ 1944年生まれ、託児教師)

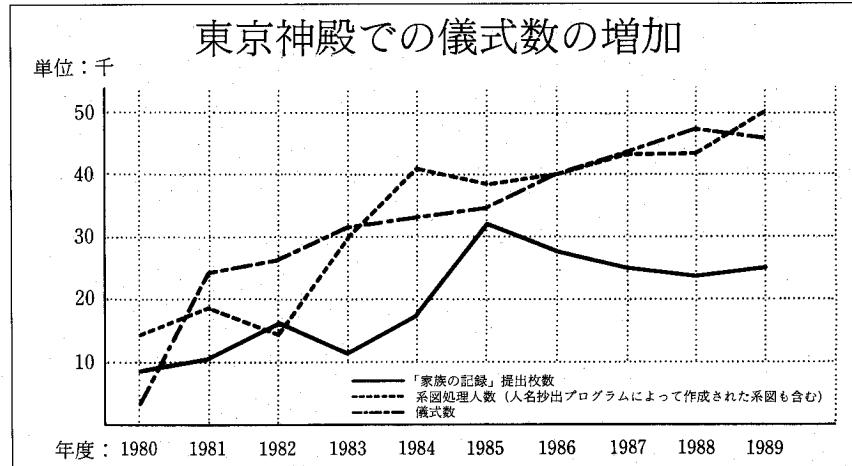
## ネームズ・プロセッシング課の紹介



東京神殿ネームズ・プロセッシング課長  
青柳弘一

**ネームズ・プロセッシング。**舌をかみそうな名前ですが、神殿部の中の組織です。ここでは神殿で死者の儀式ができるように、各地より送られてくる家族の記録(系図)や、人名抄出の記録を検査し、一人一人の方について調べ、コンピュータに登録して死者の名前を神殿に送っています。いわば、神殿の名前供給部門です。

この部門は東京神殿がオープンした前年の1979年に「神殿サービスセンター」として設立されましたが、途中から名称が変わり、1983年に「系図サービスセンター」となり、1988年に現在



の「神殿ネームズ・プロセッシング課」となっています。なお、1989年に、「家族歴史部」が改めて収書部門を設置し、全国の古い記録や古文書を消失しないようにマイクロフィルムに収める業務をしています。

最近の系図の状況をお知らせしますと、先ごろ、「家族の記録(系図)の手引き」が新しくなって以前より制約が少なくなり、容易に先祖の名前を提出できるようになりました。詳しくは手引きを学んでいただき、不明な点はお問い合わせください。希望により、ステーキ部や地方部の「神殿、家族の記録ファイヤサイド」にも出張してお手伝いすることもできます。家族の記録を提出するに当たって新しい用紙(縦長)を使用していただけますように、また、家族ファイルと神殿ファイルのどちらかを記入していただきますが、家族ファイルは短期間で処理する都合上、多くの枚数が扱えませんので、1回の提出枚数を10枚程度に制限させていただいておりますので、ご理解をお願いいたします。

当初、名前の検査処理をすべて手作業で行なっていた関係で、神殿に送る数も少なかったのですが、コンピュータを導入してから神殿参入者数を上回るほど多くの人名を神殿に送れるようになりました。(グラフ参照)昨年は5万人以上の名前を初めて送ることができ、今年は、それを上回る数になると期待しています。今まで皆様からたくさんの家族の記録を提出していただいたおかげで(長年にわたってひとりで数百枚、数千枚の家族の記録を提出し

てくださった多くの方々もいます)この10年間に55万もの死者の名前が提出され、そのうちの36万の方方が東京神殿で身代わりの儀式を受けられました。これは日本の聖徒の皆様の偉大な業績であり、神殿、系図プログラムに携わってくださった皆様に心から敬意を表します。この業は継続してさらに大きな発展を遂げる必要があります。日本で過去に亡くなった数億人の人々や、毎年亡くなる100万人近い人々の救いを考えるとき、私たちの働きはまだ小さく、神様の計画のほんの入り口にしか過ぎません。さらに多くの人々に福音を伝えるとともに、すべての家族が、自分の直系4代系図を早く調べて提出し、すべての会員がたびたび神殿に参入して身代わりの儀式を受けられるようにしたいと思います。主の再臨を前にして、この業はもっと早く進められなければ、「主の来る時、全地はことごとく荒れ廃れん」(教義と聖約2:3)と言われているようになります。死者の方々のために働くことは大きな喜びであり、祝福です。伝道を通して感じられる「その悦びは果して如何ばかりぞや」(教義と聖約18:16)と同じ喜びを先祖の方々との間にも感じられ、いかに亡くなつた方々が私たちのこの働きを待ち望んでいるかがよくわかります。私たちの救いは先祖の救いなくして完成されません。東京神殿だけでは儀式をこなしきれず、早く日本の各地に神殿が建てられるようになることを心から願い、お祈りしています。(あおやぎ・こういち 1945年生まれ)

# 第10回日本ジャンボリーに参加して



**第** 10回日本ジャンボリーは新潟県の妙高高原で8月3日から7日まで5日間行なわれ、外国からの参加者を含め、全国から3万2千人のスカウトが集った。

日本ジャンボリーは4年に1度開催される。今回の開会式には皇太子殿下がご臨席され、内外友人と積極的に交流し、自然に親しみ成長してほしいとスカウトを励ました。

2日目は友情ゲームで初めて会うスカウトと友情を深め、さらにパイオニア賞獲得のために登山や史跡探訪などをした。

3日の安息日には2時間の教宗派別の宗教儀礼のプログラムがあり、末日聖徒イエス・キリスト教会も参加した。

菊地東京北伝道部長と長野地方部の会員の協力により机やいす、放送設備を準備し、モルモン經も500冊用意した。東京や千葉から夜通し走り続けて来た兄弟たちや、長野の会員、さらにふたりの宣教師も朝6時には集合して準備にとりかかり、礼拝行事を行なうためのステージも仮設した。

開会時刻の9時にはモルモン經500冊はすべてスカウトたちの手に渡っていた。

テープに合わせて賛美歌を歌い、イーグルスカウトの証と数人の指導者の話があった。最後に浅間玄也長老(エリアスカウト協議会理事長)が聖書の中からキリストのなされた奇跡について語った。暑い日差しにもかかわらず約400人の参加者が話に耳を傾け、あたかも約150年前、西部へ向かう旅の途中で野外に腰を下ろして指導者の教えを傾聴した、初期の末日聖徒の安息

日の風景さながらであった。

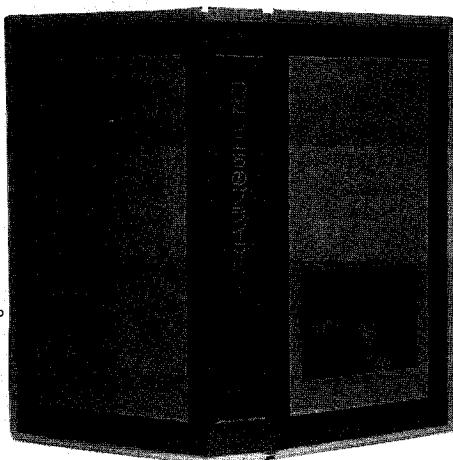
この模様は、翌朝の「第10回日本ジャンボリーニュース」にも報道された。宗教儀礼を終えてそれぞれのキャンプサイトへ戻っていくボーイスカウトの

姿を見ていると、いついかなる所でも主を礼拝できることのすばらしさと、信仰をはぐくむスカウト活動の重要さとを教えられた。(レポーター:児玉榮治、浅間玄也)



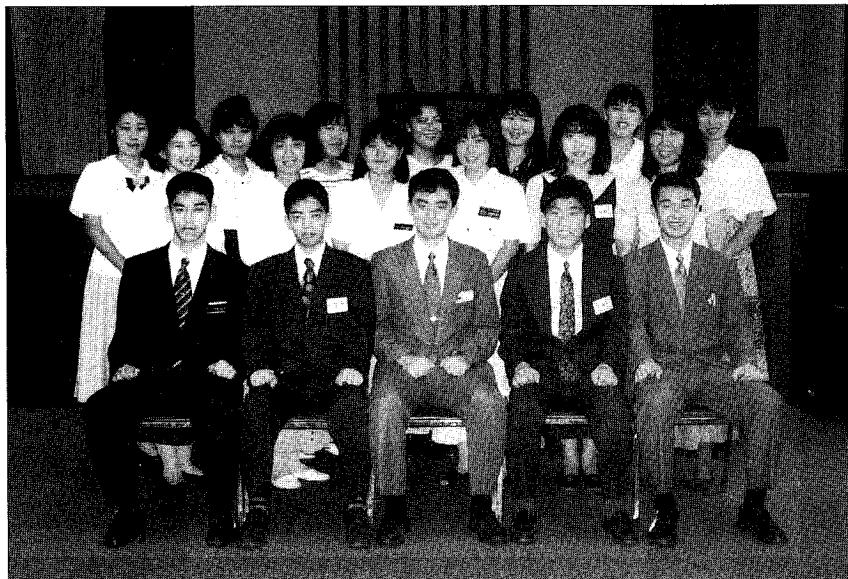
## ■ ブックセンターからのお知らせ

ビデオカセット「わたしたちのプライマリー」(VNNV1794JA, 1,500円)が発売されました。〔収録時間:57分〕すでに発売されている①「プライマリーへ行こう」(17分30秒), ②「先生、ぼくのこと大好き?」(17分), ③「バプテスマーイエス様に従う約束」(11分), ④「少年と神権」(11分30秒), の4つの資料を1巻にまとめたものです。①, ②は指導者と教師の方々の理解の一助として、また、③, ④は子供たちをバプテスマ、神権にそれぞれ備えさせるためにご活用ください。



ローカル

# 9月に召された専任宣教師 136期生 18人



後列左から1-7、中列左から8-13、前列左から14-18

〈名 前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 黒住尚子	岡山S／岡山W	名古屋伝道部
2. マリー・テレサ・ロウ・シュー・チン	東京南S／English 1st W	岡山伝道部
3. 背尾智恵	青森D／弘前B	沖縄伝道部
4. 神田理絵子	大阪北S／花屋敷W	岡山伝道部
5. 與儀明美	鹿児島D／川内B	名古屋伝道部
6. 鶴羽千代子	神戸S／西宮W	札幌伝道部
7. 柏木美保	町田S／厚木B	福岡伝道部
8. 岩松亮子	東京東S／千葉W	名古屋伝道部
9. 仲松裕美	沖縄那覇S／首里W	福岡伝道部
10. 岩下恵子	新潟D／長岡B	札幌伝道部
11. 山口佳代子	熊本D／諫早B	名古屋伝道部
12. 紺野香代子	東京北S／浦和W	大阪伝道部
13. 坂田いさ子	神戸S／加古川W	札幌伝道部
14. 永野知樹	名古屋西S／犬山B	札幌伝道部
15. 中野正嗣	大阪北S／大津W	岡山伝道部
16. 谷口正一	札幌S／豊平W	東京南伝道部
17. 金載変	大邱S／慶州B	東京南伝道部
18. 松塚修一	秋田D／横手B	沖縄伝道部

S：ステーキ部、D：地方部、W：ワード部、B：支部

## 新役員の任命

1990年8月22日から1990年9月20日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

●札幌ステーキ部厚別ワード部

新監督：大田原勝幸

(前任者：藤田一男)

●札幌ステーキ部士別支部

新支部長：中嶋孝一

(前任者：奥田理)

●札幌ステーキ部札幌東ワード部

新監督：河田勝夫

(前任者：丹治雅彦)

## 新ユニット

★札幌ステーキ部旭川第1ワード部  
(1990年7月1日旭川ワード部から名稱変更)監督：佐藤良三

★札幌ステーキ部旭川第2ワード部  
(1990年7月1日旭川西ワード部と豊岡支部が合併して設立)監督：菅原誠一

編集室から

## 皆さんの原稿を募集しています

►ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など), 本誌を読まれての感想文などをお送りください。

►ワード部／支部特集への投稿を希望される方は、編集室へ直接お電話ください。必要な資料をお送りいたします。

►1991年2月号掲載分の締切は11月30日です。なお、投稿の際、必ず連絡先(電話番号)と教会での責任(役職名), 生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

►あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

☎03(444)5264